
令和元年 第97回（定例）新 温 泉 町 議 会 会 議 録（第2日）

令和元年12月5日（木曜日）

議事日程（第2号）

令和元年12月5日 午前9時開議

日程第1 諸報告

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 諸報告

日程第2 一般質問

- (1) 9番 阪本 晴良君
 - (2) 4番 重本 静男君
 - (3) 13番 中井 次郎君
 - (4) 11番 中村 茂君
 - (5) 5番 浜田 直子君
-

出席議員（16名）

1番 池田 宜広君	2番 平澤 剛太君
3番 河越 忠志君	4番 重本 静男君
5番 浜田 直子君	6番 森田 善幸君
7番 太田 昭宏君	8番 竹内 敬一郎君
9番 阪本 晴良君	10番 岩本 修作君
11番 中村 茂君	12番 宮本 泰男君
13番 中井 次郎君	14番 谷口 功君
15番 小林 俊之君	16番 中井 勝君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 仲村 祐子君 書記 東 康次郎君

説明のため出席した者の職氏名

町長	西村銀三君	副町長	田中孝幸君
教育長	西村松代君	温泉総合支所長	太田信明君
牧場公園園長	藤本喜龍君	総務課長	井上弘君
企画課長	岩垣廣一君	税務課長	長谷阪仁志君
町民安全課長	西村徹君	健康福祉課長	中田剛志君
商工観光課長	水田賢治君	農林水産課長	松岡清和君
建設課長	山本輝之君	上下水道課長	北村誠君
町参事	土江克彦君	浜坂病院事務長	吉野松樹君
会計管理者	仲村秀幸君	こども教育課長	長谷阪治君
生涯教育課長	川夏晴夫君	調整担当	谷渕朝子君

午前9時00分開議

○議長（中井 勝君） 皆さん、おはようございます。

第97回新温泉町議会定例会2日目の会議を開催するに当たり、議員各位におかれましては御多用のところ御参集を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日は、初日に引き続き、一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。議員各位におかれましては、格別の御精励を賜りまして、議事の円滑な運営に御協力をいただきますようお願いいたします。

町長挨拶。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の皆様、おはようございます。定例会第2日目の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、昨日に引き続き、5名の方より一般質問を賜っているところであります。いずれも行政運営に係る重要な案件であり、誠意を持って答弁をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（中井 勝君） ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しておりますので、第97回新温泉町議会定例会2日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

日程第1 諸報告

○議長（中井 勝君） 日程第1、諸報告に入ります。

まず、議長から報告いたします。

昨日、12月4日の会議以来、会合に出席しておりますが、別紙の議会对外的活動報告を見ていただくことで省略いたします。

次に、11月29日付で、町長から議案第97号、新温泉町職員の給与に関する条例

等の一部を改正する条例の制定についてを撤回する申し出がありました。この撤回の申し出については、きのう12月4日開催されました議会運営委員会に諮り、会議規則第20条第1項ただし書きの規定により、議長が許可いたしました。したがって、議案番号第97号は欠番となります。なお、町長には、今後このようなことがないように、法制執務を慎重かつ適切に行うように要請したところであります。

次に、議会運営委員会が12月4日に開かれておりますので、委員長から報告をお願いいたします。

谷口委員長。

○議会運営委員会委員長（谷口 功君） 失礼をいたします。ただいま議長から報告がありましたとおり、12月4日、議会運営委員会を開催し、協議事項2件について協議をいたしました。

まず、町長から議長に提出のあった議案の撤回についてであります。議案第97号、新温泉町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定についての撤回についてであります。議長から議会運営委員会に諮問があり、当委員会で協議を行いました。本件は会議に上程されていない案件で、会議規則の規定からも議会の許可手続を必要とせず、議長の許可によるものであります。協議の結果、本件の撤回の申し出については不許可とする理由がないため、会議規則第20条第1項ただし書きの規定により、議長が許可手続を行うべきであるといいたしました。

次に、町長の追加提出議案として条例案1件が提出される予定になっており、本会議4日目、12月16日に上程することになりました。

また、閉会中の所管事務調査について3項目を確認し、議長に申し出ることを決めました。以上であります。

○議長（中井 勝君） 谷口委員長、ありがとうございました。

以上で諸報告を終わります。

日程第2 一般質問

○議長（中井 勝君） 日程第2、一般質問に入ります。

初日に引き続き、受け付け順に質問を許可いたします。

初めに、9番、阪本晴良君の質問を許可いたします。

9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 9番、阪本晴良でございます。きのうの同僚議員の質問と重複する部分があると思いますけど、よろしくお願ひしたいと思います。

まず、1つ目でございます。巨大風力発電についてお伺いをいたします。業者は、当初の説明では、平成32年、言いかえますと令和2年には工事の着工をし、工事期間は3年で、令和5年から事業開始するという予定であるとお伺いいたしました。業者が提出しました方法書の計画の中でも、そのように記載をされております。機材の搬入計画

も、5月の連休明けには委託業者から報告があり、実施方法が判明するから、その後公開するというものでありましたが、いまだにありません。今後、環境影響評価に関する準備書や評価書も必要ですが、これもまだ公表されておられません。おこなっているとは思いますが、今どういう状況なのかお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状についてお答えをいたします。昨年3月から高山地区に設置されている風況観測塔に加え、隣接して、新たに電波を利用して、より高度なデータ観測ができる風況観測装置を10月下旬に設置したと業者から報告を受けました。昨年12月から実施されていた鳥類の調査、それから資材等の搬入ルートの選定調査については現在休止をしており、当面、風況調査のみを行っていく、そのような状況になっております。なお、事業者は、5月の連休明けには資材の搬入ルートが決まる見込みとっておりましたが、ルート選定が難航し、大幅に時間がおこなっているという報告を受けております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 改めて、今後のスケジュールがどうなっておるのか伺いたしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 事業者によると、今後半年から1年をかけ、既存の風況観測塔と、新たに設置された風況観測装置を併用し、引き続き風の状況を調査し、その他の環境アセスメントについては当面は行わないとの報告を受けております。その理由として、風の状況を正確に把握した上で、この場所が事業として成り立つのかどうかを判断したいということでもあります。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） きのうの町長の挨拶の中で触れられておりましたですけども、11月21日付の日本海新聞に、県が国への要請という中に、当町に計画されている風力発電施設の設置について、経済産業省に事業認定の手續を強化し、地域住民の理解を得られない施設に対して厳格な対応を求めるとありました。県も応援していただいているんだなと感じております。

この計画書の方法書を読みますと、輸送計画では浜坂港から輸送する予定であり、事業実施計画想定区域に至る既存道路を活用する。なお、今後の検討結果により変更することがあるとされております。具体的には、浜坂港から陸揚げし、県道を通り、国道178号線を経て、主要地方道浜坂井土線から一般県道久斗山今岡線に搬入するルートと、9号線の歌長上まで輸送ルートになっております。計画区域をよく見ると、施設の設置区域から県道や国道まで何か所か角が出ております。この計画地への進入道路ではないかと思っております。

胴体部分は切断して運搬し、現地で組み立てることができるそうでございますが、プ

ロペラ部分は切断できないそうです。プロペラは長さが65メートルありますが、金屋口の1カ所だけであればレッカー車で向きを変えることはできると思いますが、長さが20メートルのトラックで、前後に22.5メートルずつをはみ出して踏み込んでみても、金屋の村の上にある熊谷川にかかった橋から先はカーブが連続して続きます。道路は山側のほうと電柱に挟まれた箇所もありますので、そのたびにレッカー車を利用することは現実的にはちょっと無理ではないかと思います。既存の県道や国道9号線からは、これから先は道路を新設して、勾配とカーブを考慮しながら道路を建設していくと思いますが、65メートルのプロペラを運搬するためには、それなりの緩いカーブとアップダウンの少ない勾配が必要だと思います。そのためには、当地のような起伏の激しい地形では、山のひだに沿った道路ではなく高速道路のような道路が予想され、土砂の切り盛りが膨大になり、大量の残土が発生すると思われる。

20年間利用するための道路ですが、大変大きな自然破壊になると思います。既存の林道の比ではないと思います。動物や植物への影響、人体への影響など、納得できる説明がないまま事業を進めることは許されることではないと思います。町長の御見解をお伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 阪本議員のおっしゃるとおりだと思っております。ルート選定が業者自身も難しいということで、決定がなかなかおこなわれているということで、業者自身も迷っているというのが現状ではないかと思っております。地形そのもの、道路の状況、いろんな状況を判断しても、プロペラ65メートルの搬入は非常に厳しい、そんなふうに思っておりますし、我が町には似合わないということを改めて実感をいたしております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 次に、会計年度任用職員制度についてお尋ねいたします。まず、さきの9月議会で会計年度任用職員に関する条例が可決されました。職員全体で522人、嘱託が38人、臨時職員が219人、合わせて779人ということで、ちょうど約半数がこの任用制度の対象となるということでもあります。

そこでですが、まず、フルタイムとパートタイムはどのような基準を定めているのでしょうか。恐らく事務量を勘案し、公平性、平等性等の観点から基準を定めていると思いますが、どのような基準で職場なり職種を振り分けているのか状況をお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。基本的な考え方として、正規の常勤職員と同様の業務量があるために、年間を通じてフルタイム勤務とすべき勤務時間が必要とされるものについてはフルタイム職員とし、それ以外はパートタイム勤務とすることを基本的に置いています。制度上、勤務時間でフルタイムかパートタイムを判断する形にはなっ

ていますが、その根本には常勤職員と比べて業務の量や内容、勤務時間に対する密度はどうか、それが年間通じてのものであるか、単に常勤職員と同じ勤務時間を設定し、拘束的な勤務形態になっていないかなどを精査した上での判断だと認識をいたしております。こうしたことを踏まえた上、勤務形態の決定と処遇改善を図っていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 事務量、内容、密度というふうなことを基準に定めるといことでありますので、それはそれできちっと基準を設けていただきたいと思います。ただ、パートタイムの件ですけれども、一日の勤務時間が、15分とか30分程度のカットでフルタイムにならない、しないということはないと思っております。最低でも1週間に半日以上はあけないとパートタイムとは言えないのではないかと思います。どうでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） その分については、適切な運用に徹したいというぐあいに考えております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） これをやりますと職場が混乱しますし、不信感が生まれると思いますので、この辺で時間だけでパートタイムにするというふうなことは避けていただきたいというふうに思います。

次に、前歴換算についてお尋ねいたします。正規職員には、途中採用された場合ですけれども、前歴換算の制度がありますが、当然この制度にも必要だと思います。どのような内容になっているのかお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 会計年度任用職員の職務に対する位置づけとして、年数に応じて高度な職責を求めたり、業務内容を変えていくといった性質のものではありません。このように定型的な業務を中心としていますので、ほかの機関や嘱託、臨時職員としての経験を前歴としてそのまま反映させることまでは考えておりません。ただ、新制度とはいうものの、基本的に現行制度をベースに初任給を決定することとしており、特に看護師などの専門職にあっては正規職員の初任給基準より高い単価を適用しておりますので、新制度でも一定の考慮はできると考えております。このほか、現在、嘱託・臨時職員として勤務されている方にあっては、新規で任用される方よりも初任給に格差を設けるなどの対応を考えております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） もうちょっとあれですけど、理解ができてないですけども、結局前歴はあるということでしょうか、ないということでしょうか。例えば、臨時職の普通の事務補助の方が5年間勤めた分は、5年間の前歴があるということを勘案し

て初任給を決められるのか、それとも全然それは、同じ事務補助ですから、もう一から、例えば高卒の方と10年勤めた方が同じ給与体系ということになるということでしょうか、改めてお伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基本的には前歴というものは加算対象にはならない、そう考えております。

じゃあ、副町長に詳しく説明をしていただきます。

○議長（中井 勝君） 田中副町長。

○副町長（田中 孝幸君） 基本的には給与体系は一緒でございますけれども、個々の任用の前歴を細かく見るということはする予定はございませんが、先ほど言われた10年とか、そういう方について、全く初めて任用される方、こことは格付を少し違えていこうかなということでございます。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 少し格付しなるということですが、その場合の基準というのはどのようになっておられるでしょうか。

○議長（中井 勝君） 田中副町長。

○副町長（田中 孝幸君） 現在組合と協議中でございますので、提案はしておりますが、まだ合意には至っておりません。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） よく協議していただいて、今の正職員と格差が当然出てきておるわけですが、正職員のレベルになるべく近づけるような前歴換算というのもやっていただきたいという思いをいたしております。

次ですが、この制度につきましては単年度の雇用制度ということは理解しております。採用の件ですが、やめたくない人も含めて試験を行うのか、それとも正職員と同じように欠員が生じた場合にのみ採用試験を行うのか伺います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 総務課長が答弁をいたします。

○議長（中井 勝君） 井上総務課長。

○総務課長（井上 弘君） 採用試験の考えでございますけれども、まず、国からQ&Aが出ておまして、その中では、まだ初度の採用のときには、競争試験または選考によって客観的な能力の実証を行う必要があるということが示されております。ですんで、今回初度になりますので、可能な限り面接を実施したいという考えを持っております。ただ、マニュアルの中には、能力実証で再度任用できるのは原則2回までということもございますので、一度採用された方が次年度になるときにもう一度試験をするかということについては、そういった原則2回まで能力実証をすればできるということがありますので、そういったことも含めて、次年度の採用については考えていきたいと思っ

ております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 2回までというのは、もう少しちょっと理解ができませんので、詳しく説明してほしいと思いますけれども。

○議長（中井 勝君） 井上総務課長。

○総務課長（井上 弘君） 説明がちょっと不十分で申しわけございません。マニュアルの中に、公募によらず、従前の勤務実績に基づく能力の実証により再度の任用を行うことができるのは原則2回までということがございますので、会計年度任用職員、1会計ごとなんで、これまで勤めておられた方も毎年試験を行っていくかということについては、原則2回まで能力実証ということがありますので、人事評価制度も若干取り入れていかなければいけないということになっておりますので、そのあたりで能力の実証ができれば、毎年試験ということではなくて原則2回まで再度任用できるという記述がございますので、例えば3年に1度試験をするということも考えていかなければいけないのかなと思っております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 聞きようによれば、1回採用されたら定年、例えば60歳まで勤務できるというふうにも聞こえますし、3年ごとに、今の例でいきますと、1回採用されて、3年後にもう一遍試験があって、また3年後は3回目になりますので、それはないと。だから、6年までしか勤められんというふうにも聞こえますし、もうちょっとわかりやすく具体例で説明願えたらと思いますが。

○議長（中井 勝君） 井上総務課長。

○総務課長（井上 弘君） 採用の回数を限定するものではなくて、例えば今勤められておられる方が来年、会計年度任用職員を受けられる。そのときには、初度のときには競争または選考ということがありますので、来年度については面接を行っていききたいという考え方を持っております。そして、その方が採用されて、その次の年も受けられるというときには、2回までその能力実証ということがありますので、その次の年は例えば採用試験を受けなくてもいい。2回までということであればその次の年もかかりますんで、その次の年も採用試験をしない。その次の年は3回目になりますので、試験をするということができないんじゃないかと考えております。それが、どういうんですか、ここで採用しないというそういったことではなくて、それは引き続き任用、応募すれば何回でも、試験で合格する、あるいは能力実証ができれば採用していくということで、雇いどめをするというような、そういうことではないということでございます。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） いわゆる途中で1回、能力検定みたいなものがあるけれども、本人が毎年申し込みすれば、基本的には60歳まで働けるということで理解してよろしいでしょうか。

○議長（中井 勝君） 井上総務課長。

○総務課長（井上 弘君） 年齢制限がございませんので、60歳までということはありません。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） わかりました。本人がやめるつもりのところまで結局雇用されるということで解釈させてもらったですけど。

○議長（中井 勝君） 田中副町長。

○副町長（田中 孝幸君） 本人がやめるまでというお話ですが、そういうことではなくて、選考試験を経て能力が確認できれば、年齢という上限はございませんけれども、採用はされるということでございます。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） では、次の質問に行きます。さきの議会での説明の中で、年額で現在の支給額を上回る額にするとの答弁がありました。月の支払い額が減り、期末手当を含めて年額を上回るのであれば、やはり月々の月額はやがて下がってくると思います。月額が下がると、月額に係る料率とボーナスに係る料率ではボーナスのほうが料率が低くなるため、支給される年金額も低くなると思っております。年金額を含めた生涯賃金が引き下げになると思いますが、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。年金支給額と生涯賃金との関係についてであります。議員のおっしゃるとおり、年収ベースで現在の支給額を確保しようとするとう末手当の支給月数がふえるため、その分月額が減ることになります。特に嘱託職員にあっては、現在報酬のみの支給ですので、年収ベースから期末手当相当分を割り戻すと、臨時職員以上に月額が減ることになります。このように、1年間だけを見れば年金支給額は少なくなる人もいるかもしれません。人にもよるので誰がどうなるかは答えられませんが、何をもって生涯賃金とするのかという捉え方もあります。

これまで嘱託・臨時職員については、最低賃金や人事院勧告によって単価を引き上げることはあっても、再度の任用を理由とする引き上げは行っていませんでした。それが、新制度では、再度の任用により上限は設けるものの格付が上がりますので、支給額で見れば生涯賃金は従前制度よりふえていくことになります。当然、年金の加入月数もふえていきますので、年金支給額もふえる要素があると考えております。もし月額保証の観点で対応しようとするとう、嘱託職員は全員、純粋に2.6カ月分を新たに支給することになり、臨時職員との均衡がとれなくなるといった矛盾が生じてまいります。そのようなことがないように、年額ベースで調整する予定としております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 月給が下がるということは月々の生活がやっぱり苦しくなると、ボーナスで確かに保障されるとは言いながらも、月々の生活、当てにしておる

生活がやっぱり苦しくなるという部分が出てくると思います。その辺は十分考慮していただいて、それぞれの働く方々の理解を得なければならぬと私は思っております。十分配慮をお願いしたいと思います。

次の質問でございますけれども、財源は普通交付税で補填されます。国は全額補填するというところでございますが、各自治体がパートタイムを多くして、自治体間で改善競争をして国に安く請求する傾向があると聞きますが、そのようなことはないと思いますが、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 全国町村会でも、その財源については全額国が補填してほしい、そういう要望も出しておりますが、現政権、上手に何かされているようで、なかなか交渉が難しいというのが実態であります。極力そういう方向で交付税なりで手当てをしていただけるように、県なり国なりに申し入れをしていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 先ほどもお話しさせていただきましたけれども、個人との折衝、説明や協議をしないといけないと思います。いつごろにそれを行うのか、時期をお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今後の予定についてであります。遅くとも1月上旬をめどに、各課及び職員組合との調整を継続して行ってまいりたいと思っております。また、公募までに、現在勤務している嘱託・臨時職員を対象に説明する機会を設ける予定をいたしております。試験については1月下旬までに受け付けを行い、2月上旬に面接試験を実施したいと考えております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 前回の議会では、12月に公募を始めなければならぬので、条例はやっぱり9月で上げてほしいという説明がありました。まだまだ組合交渉ができてないという段階で、今、条例は通ってしまっておるわけですがけれども、ちょっとスケジュールが遅いと私は思います。2月の中旬に試験ということでもありますけれども、それから、決定ですか、その採用の確定はいつごろになるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 総務課長より回答をいたします。

○議長（中井 勝君） 井上総務課長。

○総務課長（井上 弘君） 先ほど町長申し上げましたように、2月の中旬に面接試験を行いたいと考えております。人数等によってその事務量がどれぐらいになるかという想定もしなければなりませんけれども、できれば2月中に採用の決定ができればと考えております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 先ほど個人の説明、各課また組合との交渉も1月ということでありましたですけれども、先ほど言いました前歴換算とか個人に関する、最終的にあなたはこれだけの金額ですよということが決まるのは、一応4月からの支払いになるわけですけれども、今勤めておられる方が試験に応募して、試験に受かったとされてからその金額を決めるのか、それとも、それまでに、大体もうあなたの金額は来年受かってこれぐらいですよということを事前に決めるのか、試験前に決めるのか、試験より後に決めるのか、その辺はどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 総務課長がお答えいたします。

○議長（中井 勝君） 井上総務課長。

○総務課長（井上 弘君） 募集の時点では、勤務形態あるいは給料、給料については予算が通らなければいけないということがございますので、給料も、例えば幾ら程度というような表現になるかもわかりませんが、募集の段階では最低そういう勤務条件、労働条件、それから処遇、そういったものも示せないといけないと思います。となると、事前にそこに至るまでには、今勤めておられる方にはある程度の条件は示さなければいけないという考えでおります。ただ、個人、あなたがどれぐらいというようなことはお示しできないと思います。募集も職種で募集することになると思いますので、職種ごとにはこれぐらいというようなことはお示しできると思います。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） いずれにしても、職員にも生活がありますので、そこら辺のところをきちっと認識されて、今後のスケジュールなり、早目早目の手だてをお願いしたいと思います。

今回はせっかくの非正規職員の制度の見直しであります。同一労働同一賃金、正規職員との格差の是正、これらを目指して制度の運用をすべきであると思っております。今きちっと制度を確立しておかなければ、今後変えようと思っても、どうしてもハードルが高くなると思います。前例主義の行政のやり方ですので、どうしてもやっぱり変更するには理由が要りますし、ぼんと感覚だけでは改正ができないということがあると思いますので、今回はきちっと皆さんの要望をよく聞いていただいて決定していただきたいと思っております。

平等、公平な制度にしなければ、それは楽しい職場ではなくなります。この制度を運用するに当たって、町長の最後の決意をお願いしたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これまで地方自治体の正規職員、それから臨時職員、こういった待遇が非常に不明確であった。こういった中で、国が先頭に立って制度のあり方をきちっとしようということで、今回こういった制度ができたと思っております。一歩前進ということではありますが、まだまだ課題はあるように考えております。働きやすい環

境、こういったものが最も重要だと思っておりますので、そういった点、いろんな御意見をいただきながら、いい制度になるように努めてまいりたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） では、次の質問に移ります。浜坂地域の認定こども園の整備について伺いたいと思います。

町長が就任されて、浜坂認定こども園の建てかえ候補地について、最初の検討委員会の最終候補地でありましたすこやか広場を再検討され、その報告書を10月30日の総務教育常任委員会で示されました。私も総務教育常任委員会の傍聴をさせていただき、また、その資料、さらに第二期の検討委員会の議事録も拝見させていただきました。これらを踏まえて質問いたします。

まず、浜坂認定こども園の整備のあり方について教育長がまとめておられますが、この中で、初めに、議会から浜坂、大庭2園を存続して整備する方針の内容を明らかにするように求められているとされております。議会は、浜坂、大庭の統合を示唆しているとの認識をされているという書き出しとなっております。そのため、9つの視点から検討した、まとめたとしております。キーワードとして、地域で育てることを上げております。

9つの内容ですが、1つ目の教育の視点では、学校の小規模校の例を挙げて、基本的には同じである、きめ細やかな指導の重要性、人とのつながり、社会力は地域で育てることが重要としております。

2つ目の地域の視点では、社会福祉協議会、区長会、民生委員会、それからすこやかクラブなど、ボランティアグループとのつながりで園の役割が見えてくる、社会力が育まれるメリットがあると書いてあります。

3点目は子供の推移、保護者の視点であります。ゼロ歳児、1歳児の送迎は保護者の対応であり、近くが望ましいと考えるとしております。

4点目は安心・安全な施設の視点ですが、浜坂のこども園は耐力度調査、大庭は耐震診断の結果と施設の整備が不十分であることを掲げて、早急に進めるべきであるとしております。確かに早急に進めることは重要だと思います。

5点目は公共施設との関連性の視点を上げておりますが、浜坂は図書館、以命亭が近く、大庭は病院やささゆり、社協があり、また、これらの職員の保育ニーズがある、今後もふえていくとされております。近隣の施設の交流、活用が果たしてできているのでしょうか。老人施設への訪問、交流はあると思いますが、そのほかの施設はどうでしょうか。

6点目は求められるサービスの視点ですが、ゼロ歳児保育、病児・病後児保育などの多様なニーズに応えるべきとされております。

7点目の財政上の視点では、浜坂は財政計画がある、大庭は対象経費を計上する必要があるとされております。もっと掘り下げて、土地代、建物の建築費、くい打ち費、か

さ上げ費など、予想される費用を算出し、比較するべきだと思います。

8点目は教職員構成の視点ということで、正規職員は近年、予定の半数しか採用できていない、また、臨時職が担任を持たなければならないとされております。

9点目の保護者、地域からの声の視点では、保護者説明会や住民懇談会の場では積極的な統合の声はなかった、それぞれに早期の整備要望があった。一方で、経費削減や職員体制で統合すべきとの意見を持つ住民がいることも事実であるとされております。

つまり、これらは一般的なことを掲載されているわけで、浜坂認定こども園と大庭認定こども園の特徴的なことは触れられておりません。どこでも、どの保育園でも、大規模でも小規模でも当てはまることではないでしょうか。どのようにこれから先、特徴的な2園としての運営をされようとしているのか伺いたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教育長からお答えをいたします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今の件なんですけれども、浜坂認定こども園と大庭認定こども園の統合についてということで、教育委員会の中では今、議員から言っていただきましたような9つの視点から協議をしていただきました。その結果、それぞれの園をやはり特色のある園としての存続をしていくというようなことで整理をしていただきました。先ほどもありましたように、浜坂認定こども園のほうは、やはり加藤文太郎の図書館があったり以命亭があったりとか、環境的にも海に近かったりというようなとてもいい教育環境、文教的なゾーンであるというふうに認識しております。大庭認定こども園は、先ほどもありました、病院とか、ささゆりとか、保健医療の福祉ゾーンということで、福祉ゾーンの面での特徴的なよい環境にあると思います。で、整理しています。

そういったことで、この中で地域との連携というか、つながりということを強く言ってるんですけれども、これからのこども園、それから小学校、中学校とか教育について、やはり地域の中で子供を育てることが大きな国の流れになっています。地域とともに子供を育てる、地域ぐるみで子供を育てるというような大きな流れがあると思っております。各地域にこども園がなくなるというようなことは、地域にとっても、地域の活性化やったり、地域に住んでおられる皆さんの元気につながる、子供の声というのはやはり地域の元気につながると思っています。子供たちがいなくなることで地域に元気がなくなるとか、そういった声も聞いておりますし、地域の皆様のいろんな子供たちとの交流の中で、子供たちがすごいちっちゃいときにいろんな大人の方と触れ合うことが、子供の成長にとって、大人になったときに、本当にふるさとを愛する気持ちにももちろん通じますし、人とうまく関係性をつくる、今、非常に大切な力だと思いますけれども、そういったことにもつながるというようなことで考えています。

今後、特色ある園ということなんですけれども、今ある、現在の位置にある環境を生かしながら今後しっかりと考えていきたいというふうに、交流をどんどん進める、今もして

いますけれども、地域の中に出かけていくとか、そういったことで考えていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 確かに今後ということであるでしょうけども、なかなか保育園といいますか、こういう園の運営で、周りに例えば海がある、山がある、畑があるということで、そこを活用するということであれば、確かに特徴ある運営ということが言えると思います。ただ、あるだけでは、園の中から出なければ、どこに園があっても、親がその近くにあったほうが連れていくのに時間が少なくて済む、ただそれだけの、利便性だけの話になるのではないかなと思います。

これまでそういうふうに、図書館があったり、以命亭があったり、あるのはわかりますけれども、それを園がどういうふうに活用するかということで特徴が出てくると思います。病院でも一緒だと思います。ささゆりに例えば大庭のこども園の方が行きて交流するということであれば、大人との交流ということはわかりますけれども、それが何年間、どれぐらいあって、それをどういうふうに教育であり保育として伸ばしていこうかということが大事ではないかと。だから、例えば1カ所にある、2カ所にある、5カ所にあるにしても、それは周りとの、外に出て交流するということがあって初めて、例えば隣の人に来てくれて交流してこそ園の運営で特徴的なことが出るということはあると思いますけれども、これまでそういうことがあったのかなかったのかということが特徴を出せるかどうかということだと僕は解釈をしております。その辺はどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、阪本議員から言っていただいたように、今現在も大庭認定こども園のほうはことしもささゆりに行って、歌を歌ったりとかいう交流もしています。はまさかの里にも以前には行ったってということも聞いておりますし、そういったことをやはり積極的に進めていくのがもちろん地域との交流に、大人と触れ合うことにつながりますし、お互いが元気になっていく、子供から元気をもらう、また、子供が年寄りの方と触れ合ったりすることで、本当に優しい気持ちとか、思いやりの気持ちとか、いろんなことが育っていくだろうと思っています。

浜坂認定こども園も、畑があるんですけれども、そこで畑づくりに来ていただく中で交流をしたりとか、地域に出かけていくということも現在もしておりますけども、やはり積極的な、そういった外に出ていくということもとっても大事だと考えています。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 特徴あるということは多分そういうこと、園の中であれば、同じ区域の職員の異動によって、大体ここでやったことはほかでもやることになると思います。ですから、あんまり職員がかわらん限りには同じような保育、教育がなされるのではないかなと思いますので、特に特徴的なという、2園を残さないけんというふうなことは私はならんじゃないかなと、理論的にはそう思います。

それと、次の質問に移りますけれども、第二期の検討委員会では、結論として、すこやか広場と現在地の北側、東側、南側の4案で検討され、その結果、現在地に東側を加えた案と北側を加えた案を最終報告として決定しております。さらにこの案を、田中副町長を委員長とした選定委員会において、第1候補を現在地と東側、第2候補を現在地の北側に決定したという資料になっております。

この第二期検討委員会では、候補地の選定基準を改定し、1つ目は安心・安全な場所、2点目が園児の登校や保護者の利便性の確保、3点目が周辺の理解が得られること、4点目が財政的負担が少ないことの4項目の基準と、具体的重要項目として、広さを5,700平方メートル以上、海拔を津波想定区域外とすること、地盤沈下が起こらないような場所、または地盤改良が抑えられること、災害影響区域外であること、交通の利便性がいいこと、周辺環境では住宅地や工場周辺を避け、閑静な場所であることの6項目を定めております。

この検討結果の報告書でも、議事録を見ても財政的な検討が不明です。どのような検討をなされたのか、財政的に検討されたのか伺います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 検討委員会の内容、庁舎内における財政の検討ということでしょうか。それとも、検討委員会の中における財政面の検討ということでしょうか。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） こども園の場所選定なりする経過において、財政的に検討がなされたかということです。どこで検討されたかはあれですけども、もし検討されておったら、その内容を示していただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当然あり方検討委員会の中で検討なされたと思っております。

詳しい内容については、担当課長に報告をしていただきます。

○議長（中井 勝君） 担当課長は財政、総務課、何課、指名してください。

じゃあ、まず、検討委員会。

長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 検討委員会で財政的なものといいますが、それにつきましては、まず中身ということがございます。まず、浜坂認定こども園を建てるに当たりまして、どういう経費が必要であるかということで、土地の購入費で、その土地の造成費、また、今ある園舎を解体する解体費であったり、駐車場も必要となってきますので駐車場の整備であると、それと新しい園舎の建築費、また設計監理費ということで、財政計画上どのぐらい要るかということで積算をして、それらについても財政計画ののっとってやっていくということで、財政的なことについても経費的に、今のあれであれば全体で約10億円というふうなことで話はしてきております。以上です。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） それは、この結果報告書の中に9つの地点を羅列しておられます、候補地を。この中で、それぞれの候補地で検討されたということでしょうか。それとも、最終的に今の北側なり東側の2つだけで、どちらをとっても最終10億円ということで検討されたということでしょうか。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 基本的には、概算ではありますけども、事務局としては候補地ということが上がってる限り、当然幾らぐらいかかるのかということは概算で試算はしております。それにつきましては、検討委員会の中でははっきりとしたことは示しておりません。検討委員会の中で検討していただいているのは、そこにあります重点項目について、重点項目、選定基準に従いまして具体的な重点項目、その選定方針に基づいて選定をしていただいているということで、その中の選定基準に財政的負担が少ないことということがありますので、ここはどうかと言われたときには、やはり今現在地周辺であれば現在地プラスですので購入費は少なく済む、全体的に購入しないといけなくなれば経費的にはかかってくるというふうな話をしてきております。以上です。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 最後の比較は多分、土地購入費と、今の現在地ではくい打ちということが、その差が財政的な負担の多い少ないになってくると思います。単純に言って、くい打ちのほうが高いのか、用地費のほうが高いのか、その辺はどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） くい打ちにつきましても、過去の、どのくらい、くいを何メートルぐらい打つのかということで、あと、本数がどのくらい要るのかということで変わってくると思いますし、土地についても地目とか広さによって変わってくると思います。以上です。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） それはそのとおりだと思います。でも、資料には12メートル、100本という基準があるじゃないですか。だったら、これをもとに、大体くい打ちはここの土地だったら何ぼ、こっちの土地だったら何ぼということが、概算の概算ですけども、土地も畑だろうと、田んぼだろうと、宅地だろうと、大体この辺の土地はまあまあこれぐらいの金額だろうという想定はできるんじゃないでしょうか。それをもって大体の概算、事業費10億円を出されたと思いますので、その辺のところは、もし明らかにできるんだったらしてほしいと思いますけれども。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 済みません、検討委員会の中で、今、課長からありましたけれども、場所の選定というようなことでしていく中で、細かい、何ていうんですか、試算、ここやったら幾らとかいうところまでのことは検討委員会の中ではしておりません

で、これからどんな建物にしていくか、場所が決定すればそういったこともこれからどんどん考えて、ある程度のことにはありますけれども、いろんな意見も聞きながら決めていくので、細かいところまでの試算というところはできておりません。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 自分で基準を決めておいて、その基準の項目はできておりませんというのは、何かちょっとふつり合っていると思いますか、おかしいじゃないかなと思います。せっかく財政的な負担が少ないことということであれば、大体この土地だったらどれぐらい、10億円なのか11億円なのか、ここだったら8億円でできるとかいうことは、当然この基準を設けておるわけですから、その基準に従って行動するというのが普通の行政のやり方だと僕は思います。やってないということであれば仕方ないと思いますけれども、十分これから検討していただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 阪本議員、答弁があるみたいです。

田中副町長。

○副町長（田中 孝幸君） 先ほど教育委員会から詳細はという話だったんですけども、以前、教育委員会からはくい打ちも、結局、例えば関西測量のところも、軟弱地盤なのでくいは打たないといけないということでございました。そして、今の現在地周辺もくいを打たないといけない。その数量については、若干の差異はあるかもしれませんが、やはりしっかりと打たないといけないということでございます。

それと、浸水の高さですね、関西測量のところであれば50センチぐらい、そして現有地であれば1.9メートルから2メートル20センチぐらいでしたでしょうか、そういう差異がございます。建設費という意味では、くい打ちのボリュームがさほど変わらないのであれば、土地の大きさによってその額が変わってくるなど。それと造成費、当然土量の問題がございます。そういったものからすると、大きな差はないのではないかなという御報告を受けたところでございます。

そして、その周辺地域での安全性の問題、確かに洪水という面からすると、安全対策ということがございます。安全対策ということにつきましても、タイムライン的にどういった形で浸水してくるのかということがあります。それは、まずはバックウオーターという形で味原川の水がある程度あふれてくる、そして、新しい味原川のところからもあふれてくるという形になろうかなと思います。そして、岸田川のところになってきますと、戸田あたりが一番堤防が低うございますので、そちらからあふれてくるという形になって、大体浸水が2.2メートル、あるいは1.9メートルという形になりますので、そういった造成費をカウントしておりますので、若干、関西測量のところよりも土量は多くなるということになると思います。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

午前10時03分休憩

午前10時03分再開

○議長（中井 勝君） 再開します。

9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） やっぱり財政的にはまだ検討の余地があるという思いを受けました。それが今、1つの園を建てるのに10億円かかるというふうな意味だと思っています。これをまた浜坂でそれだけ、大庭でそれだけということになるというふうなことで、約20億円とは言いませんけども、大庭がどれぐらいするのかわかりませんが、大体概算でいうと、2つ、言えば20億円と、2園を1つにするんだったら、もうちょっと広くせないけませんので10億円ぐらい、真ん中にとってということで、財政的には1園のほうが安くつくというのは、やっぱりそれはそのとおりだと思います。

ですから、特徴ある園を本当にやり切れるかどうか、地域と密着したことをやり切れるかどうかというのが、2園になるのか1園になるのかというところの分かれ目だと思います。そういう運営を本当にこれから先、わけてよくやれるのかどうか。だから、温泉地域では1つの園にして、1つの園でその地域との、例えば畑もその隣に借りておられるようですし、大人の方たちが来て、老人の方とも触れ合いながらということもあるようです。ですので、子供は5歳までですので、どれぐらい覚えておるのかおらんのかようわかりませんが、しっかりとその地域を特徴した園を運営していただきたいと思っています。

もう一つ、温泉地域との整合性、温泉地域は1つであります。浜坂は2つが公立と、それともう一つ、明星認定こども園があります。明星認定こども園も今、60人定員のところを、資料で見させていただきますと、70人を超える園児があるようです。それがどうなのか、いいのか悪いのかそれは別にして、3つの園があります。この明星認定こども園も含めたところで、これからだんだんと園児が減っていくということが統計上示されております。そういった中で、明星認定こども園もずっとこれから先、存続されるでしょうし、大庭と浜坂の認定こども園もそれぞれ存続するという立場で検討をされておられますけれども、温泉では1つできちっとした保育教育がなされておると。それを、浜坂では3つの保育園でなければ、そういう教育、保育ができないという、そことの整合性はどういうふうに考えておられるのかお伺いします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 整合性って、何ていいますか、歴史の中で生まれてくると。結果、今を見て整合、僕は整合と言っておられる意味がよくわからないんですけど、何をもちいて整合とする。例えば温泉地域、保育園、1カ所しました。その結果どうなったか。ごらんのとおり、温泉地域の人口減少は、浜坂エリアに圧倒的に減少率がすごいです。特に奥八田エリアは旧町でも本当にどんどんどんどん減っていると、そういった現状があるわけですね。やはり地域の中に施設がなくなると、どんどん減ると。合併して旧温泉町は庁舎がなくなって、庁舎の需要そのものも大きく減りました。その結果は、今の

旧温泉エリア、湯村エリアとっても、すごい寂れてきております。その経済的効果、統合したら1つで安く上がると、こういう論理だけでまちづくりをすると将来もう本当にどんどんどん縮小するわけですね。そういう論議でいいのかどうか。

私は、将来を見詰めた場合、減るから減らせとこういう論議しておいたら、町は未来は全くないと思うんです。ぜひ今の旧温泉町の保育園の現状、奥八田行っても子供の声も一つも聞こえない、こんなことでいいのかどうか。本当に私はそこを考えるのが大事だと思います。だから、小さくても残す。

若い人が出ていくのは働く場所がない、保育園なんかは、やはり若い方が圧倒的に働く場所としてできるわけですね。ところが、保育園をどんどんどん地域から削っていくと働く場所も減る。そうすると、必然的に都会に出ていかれる。将来を担う人口をふやしていけるのはやはり若いお母さん方、そして高齢者を見るのも女性です。

こういったところを一步先を考えると、ぜひ保育園のあり方、ただ単純に金の論理というふうなことでなしに、やはりもう少し町全体の将来像、もっともっと広範囲な視点で考えていくべきだ、そんなふう考えております。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

午前10時10分休憩

午前10時10分再開

○議長（中井 勝君） 再開します。

9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 町の活性化は、町長の言うとおりでと思います。そのことは僕も否定はしません。ただ、一つ一つの施設なり施策なりを考えていくときに、やはり財政というものは一つの基準ではあると思います。財政だけが全てではないというのは私もそのとおりだと思いますし、それは、だけど、財政も物差しの一つだと。ですので、総合的にどう考える。だから、町が寂れていくのを全ての担当課が、なるべくなら減らないようにそれぞれの担当課がそれぞれの仕事をしていって、総合的にそれをプロデュースするのが町長だと思います。

ここだけを力を入れて、2園を1園、1園を2園ということは、もう少し上から見るといとか、高いところから見ていただいて、将来それこそ財政的に耐えられるのかどうか。職員が今、この報告書でなしに、あり方の中にもありましたように、採用の半分しか集まらない、そういう実態を見てみるときに、人口がだんだんと減って、保育園の園児もだんだんと減っていくという段階で、そこだけを力いっぱい金を突っ込んでいとか、金を使っても、なかなかそこだけでは難しいと思います。総合的にやっぱり働くところもちゃんと、きちっとこしらえる、子育ての手当てもちゃんとゼロ歳児も受け入れるいうことをしていかないと。

今言いましたけど、ゼロ歳児の保育の部分は、場所がないとか人がないとかいうこと

で、浜坂認定こども園の範囲なりを空白地帯にずっとしておりますけれども、その例えは前の幼稚園のとき、今の子育て支援センターなんか1部屋か2部屋か使わせてもらって、あけてもらって、やめられた保育士さんなりに何年か、今の認定こども園が新しくできるまでの間でも、その間でもちょっと数年間を手伝いをしてもらって、何とか今の、6カ月ですので、6カ月過ぎたら1歳になりますので、そしたら、この6カ月の間だけです、親からすれば、保育をできるような環境をつくられてはどうでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 総合的に判断したら、子育ては最も大事にしなければならん部分だと思っんです。だから、総合的にバランスよくっていう、そういう問題ではないと私は思っんです。総合的に考えたら最も中心的な大事にするべき部分、これが子育て、将来を担う子供たちをどう見ていくか、そういう観点が必要だと思っんです。そうすれば、そこにお金を突っ込むのは当然だと。バランスよくっていう、そういう問題と私はまた違っと思っんです。これだけ少子化で、消滅都市も本当にトップクラスという、そういう子供たちの人数が少ない、それをどう維持する、逆に言えばふやしていけるような、そういう政策を打っていくべきではないか、そんなふうに思っっておりますし、少ないから減らせという論議ばかりではやはり次はないと思っます。

高規格道路もできますし、私はこれから温泉をもっともっと活用する、町の魅力をもっと生かしていけば、鳥取から新温泉に住もうか、そういう子育て環境をつくれればもっともっと、将来減る論議でなしに、ふやす論議ができると思っっております。ぜひ、ふやす論議を議員の皆さんにも、こうしたらもっとふえるでという論議をいただきたいなと思っっております。何か消極的な論議になってるような感じがして、非常に寂しい思いがします。ぜひこうしたらもっとふえる、ふやせ、じゃあ保育園も置け、こういう論議になるような提案をいただいたら、私は、もっともっと住んでる方が、よし、新温泉に住もう、もっともっとここに残ろうとかって気持ちになると……。

○議長（中井 勝君） 町長、質問に対する回答だけお願いします。

○町長（西村 銀三君） はい。そういうことで、ぜひ未来志向をお願いしたいと思っます。

○議長（中井 勝君） 回答がまだですけど、忘れましたか。

西村教育長。

○教育長（西村 松代君） ゼロ歳児保育のことがあっったと思っんですけれども、おっしゃられたとおり、場所とか人の確保とか、いろんなことで越えなければならないハードルがあります。今現在どうしたら開設できるかというか、ゼロ歳児のこともやっぱり、まちづくりの、町民の方と話す機会するときにも多くの意見をいただきましたし、とても大切なことだと思っっておりますので、どうしたらできるかという可能性について今探っているというか、できる方向にどうしたらいけるだろうかというようなことはちょっと

取り組んでいる、そんな状況にあります。

○議長（中井 勝君） 提案についての回答がないですけど。

西村教育長、どうぞ。

○教育長（西村 松代君） 子育て支援センター、本当にそこを活用できるような形というのは考えるべきだと思っていますので、今すぐにとということにはあれなんですけれども、できるだけ、やはりニーズが非常に多いので考えていきたい、取り組み、可能性、しっかりと探って取り組んでいきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） ここで申し上げておきます。しっかりと質疑問いといてもらわんと、答弁になってませんよ。しっかりしてください。

9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 私も町長の言われた意見、否定はしたつもりはありません。町長が言われたとおりだと僕も思っております。ただ、今議長が言われましたように、答えが欲しかったのは教育長が言われた答えです。そっちを質問したつもりなんです。町長の言われたことを僕は否定したつもりはありません、そのとおりだと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

今のお話ですけれども、早急にと言われますけれども、では、来年の4月から募集かけるような段取りでこれからのスケジュールを組まれたほうがいいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 4月からということなんですけど、今の段階で、はっきりとここで4月から募集かけるようにいきますということはちょっと申し上げられないかなと思っています。ですけれども、絶対必要なことだと思っていますので、本当に努力をしていきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 阪本議員、残り時間が少なくなっております。まとめてください。

9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 今早急にできないネックは何でしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在そこに充てる職員の配置ということには課題、まだはっきり今の現時点で申し上げられないかなと思っています。それと、支援センターなりどこかですとなれば、そういうゼロ歳児を受け入れるための施設にしないといけませんし、そういったことも、いろんなことを考えていく中で、今の現時点で4月ということはちょっと申し上げられないかなと思っています。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 早急に早急にと言いながら、やっぱり体が動いてないという感じを受けました。やっぱり体が動いても気持ちがあつるとというのが早急だとい

うふうに思います。やっぱり動かして、やめられた先生方にも聞いてみて、これだけの人数が要るのでというふうなことを思い浮かべながら訪ねていただいて、それでもし人が集まれば、あとは施設ですので、そこがいけなんだからこっちの施設を使うとかいうことを考えながら取り組んでいただきたいと思います。

次の質問に移ります。熊谷小学校跡地の活用についてでありますけれども、熊谷小学校が廃校になってから8年ほどたつと思いますけれども、今のまま活用せずにはほっておくのはもったいないと思います。現在の管理費がどれぐらい年間かかっているのか伺います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 平成30年度の結果であります、実績です。まず、電気代が5万2,141円です。それから、水道代が8万2,920円、電話代が3万5,350円、建物共済負担金7万3,738円、警備委託料5万1,840円、浄化槽保守点検12万8,952円、合計で89万4,941円となっております。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 何も使ってないと思いますけども、使っておいたら申しわけありませんけども、約90万円弱の年間経費が要るということでございます。せっかくある施設、置いといてもだんだんとさびるばかりであります。この辺を活用を検討されたことがあるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。まず、年間25回利用しております。私も時々敬老会、それからいろんな会合に顔を出しております。

旧熊谷小学校は平成22年の4月、閉校となっております。以後、普通財産として総務課が管理を行っております。閉校となった当初から、地元区長初め熊谷・伊角区の皆さんとその活用方法を検討・調整し、可能な限り地域の皆さんが、学校があったときと同様にグラウンドや体育館等を利用していただけるよう貸し付け契約を締結し、御利用をいただいているというのが現状であります。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 何か敬老会、年25回というお話ですけど、もったいないというふうに思います。何か民間に貸し付けたり、部分的に売却して活用してもらおう。また、今ごろインターネットで仕事ができるそうですので、そういう方々を募集して、そこに入ってもらって活用する、何かいろいろなアイデア、知恵があると思いますけれども、そういうことでの活用はできないのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地域の意見を聞く中で、地区公民館として活用してはどうかという御意見もあります。また、グループホームを誘致してはどうか、そのような御意見もありまして、地域の方々にまた検討をしていただいておりますという現状があります。

○議長（中井 勝君） 9番、阪本晴良君。

○議員（9番 阪本 晴良君） 地区公民館は熊谷の神田にあります公民館を使っておりますので、今の小学校はそちら側には行かないと地元の方から聞いたことがあります。地域で活用するという事は確かにいいことだと思いますけれども、施設、年間約90万円維持費がかかるのに、使い方がもうちょっと密な使い方っていいですか、今のままでは何か本当にもったいないという思いがします。何か民間の方、今の老人ホームですか、老人ホームとかで使ってもらおうということであれば、有効的なのか、全面的に毎日使うものですので、そこにもまた人が入ってきて、労働者もふえるということでもありますので、そういう使い方ができれば一番いいとは思いますが、今後さらなる使い方を検討していただきたいと思っております。

町長の思いを聞いて、質問を終わりたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 阪本議員がおっしゃるとおり、非常に10億円かけた小学校です。活用方法、もっともっと生かし方がないか、地域の方々とも相談しながら進めていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） これをもって阪本晴良君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

午前10時25分休憩

午前10時40分再開

○議長（中井 勝君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、4番、重本静男君の質問を許可いたします。

4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 4番、重本静男でございます。議長の許可を得ましたので、質問をさせていただきます。

町議会議員になりまして丸2年が過ぎ、3年目に入りました。この2年間、自問自答をする日々もしばしばであり、私のできることをコツコツやってきたと思っております。初めてこの議場で質問したのが、ふるさと納税のこと、鳥獣害対策のことです。西村町長の手腕で実現できたことが私の今後の励みになります。今後は子育て支援に力を注ぎたいと思っております。

それでは、今回は浜坂認定こども園の整備について、2つ目にふるさと納税について、3番目に鳥獣処理施設についてのお尋ねをさせていただきます。

まず、浜坂認定こども園の整備についてであります。岡田教育長が退任してから長らく中断していた第二期浜坂認定こども園の整備検討委員会も、西村教育長の就任後の7月9日に再開され、建てかえ候補地選定に係る検討結果報告書が町当局に提出されま

した。最終候補地2カ所を浜坂認定こども園建てかえ候補地選定審査会で審査し、先ほども阪本議員が言いましたけど、第1候補、現在地と園舎東側、第2候補地が現在地と園舎北側に決定し、町長に報告があったということであります。私も10月30日の総務教育常任委員会を傍聴させていただきました。昨日も委員長の報告のとおり、各委員から厳しい意見が出ていました。危険物建物と判定され、一日も早く建てかえを望むものであります。

まず1つ目に、検討委員会の答申に、町長みずから自信の持てる候補地なのかお伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。浸水域想定内ということで、決して100%と言えるわけではありませんが、いろんなまちづくりの観点、総合的に判断する中で最適候補地だ、そのように考えております。検討委員会のアドバイザーの意見の中にも書いてありました。非常に、何ていいますか、適地であるということも書いてありましたし、ぜひこのまちづくりの総合的な観点からこの位置が最適だ、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 事業を進めていく上で、やはり首長が自信を持って推進していくというのが基本であろうかと思えます。ということで、ここに決めたら突き進むというような意気込みでお願いしたいと思えます。

2つ目に、洪水浸水想定地域でありながら選定したという、それもあわせてお答え願いたいと思えます。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この件については、教育長から答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、議員のおっしゃったように、洪水浸水想定区域であるという課題はあるんですけれども、その中でとれる安全策ということで検討してきております。地盤を2メートル、きのうもありましたけども、かさ上げするということ、それから新園舎を2階建てにして2階に避難場所を設ける、また、岸田川の堤防よりも高くして、屋上に万が一のときにはヘリで避難ができるようなところにする、そういったことで安全対策を講じて、子供たちへの安全もしっかりと担保できるような形ということで考えています。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 議員の中でも話をしたわけなんですけど、2階建てにする、2階を遊戯室にする。それで、もし万が一のときは屋上に上がる。それで、議員の中でもちょっと話があったんですけど、別にヘリポートを上につけるっていうんじゃなくて、避難したらヘリが来て、つり上げて助けるというような方法でしょうか、お伺いします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教育長からお答えをいたします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 避難をして、今おっしゃったような形の事です。避難をして、もしというときにはなればヘリでも、そういうことも可能だということです。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） そこらあたりをちょっと確認しておきたかったもので質問しました。

3番目の、要はほかに候補地があったわけなんですけど、そこと比べてここが適地だと思うところをお伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今の現在の候補地というか、浜坂認定こども園は41年間、住民の皆様が大変親しまれた場所であるっていうこと、それから環境的にも静かです。先ほど申し上げたように、海や山が、川などの自然環境にも恵まれてるということとか図書館がすぐ近くにあるということ、以命亭もあります。そういったことで、やはり幼児教育をする上で、先ほどもありましたけども、外に出ていくということについても幼児教育に適した環境だということで、ほかと考えた場合、そういった面で適してるのではないかということです。済みません。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 今まで各同僚議員が、危険地域だから別のほうにしたらいかがかなという話が多くあったわけなんですけど、以前、私も現在地、環境がいいなということで、ぜひここを進めてくれということを行いましたので、これからずっとその方向でいきたいなと思っております。

ただ、本当に最初から危険な区域、危険なといいますか、水がつかるというところにあえて建てるというのは、同僚議員も指摘してましたけど、例えば先ほど言いましたかさ上げをする、園舎の2階に遊戯室をつくる、屋上をつくるとか、当然そういったきっちりした対策をとらなければ、我々もその場所がいいということは言えないわけなんですけど、そういったところで危険箇所をクリアするということで対策をとっていただけたら私はいいんじゃないかと思っております。

その検討委員会がなされた後、10月の長野であるとか、千葉であるとか、かなり多くの洪水が出たということで、検討委員会やメンバーの方から聞いても、洪水があったので、その後、町民の皆さん納得してもらえるかなというようなことだったんですけど、私ちょっと調べましたところ、長野市の例をちょっと申し上げさせていただきます。これは2019年10月12日の10時56分に大雨洪水警報が出ておりまして、これは气象台からの発表であります。そして、同じく10月12日の15時30分、これが大雨特別警戒ということで、やっぱり气象台から発表になっております。それで、同日1

0月12日の21時前後に河川が氾濫をしたというようなところであります。ですから、大雨特別警報が出てから氾濫するまで、これが5時間半、それで、要は大雨洪水警報が出てから氾濫まで10時間ということであります。

同じく福島県の郡山市の洪水の経過を、ちょっと申しおくれましたけど、これも台風19号のときであります。これも同じように報告しますと、10月12日14時09分に大雨洪水警報が発表になりました。同日19時30分、大雨特別警報に切りかわり、これも气象台からの報告であります。そして、日が変わりまして、10月13日、1時前後となっておりますけど、ここで河川の氾濫がありました。これも大雨特別警報から河川の氾濫までやっぱり5時間半かかっている。それで、先ほどと同じように大雨洪水警報から氾濫まで、これが約11時間というようなことで、皆さん、本当に逃げるのに、水がつかったら逃げれへんじゃないかということで思われるかもわかりませんが、これが即岸田川、この新温泉町に当てはまるかどうかわかりませんが、先ほど副町長もちらっと言ったように、やっぱり浸水するまでには時間がかかるということで、その間に避難ができると僕は思います。

ここらあたりのちょっと資料を見て報告させてもらったんですけど、このあたり、町長、どのようにお考えかお伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今、台風19号の実例を言っていました。確かに約10時間、警報が出てから時間があるということで、十分逃げるといことは可能だと考えておりますし、そういった観点も踏まえた上で、今の御提案している場所、検討委員会で結論出していたいただいた場所が最適だと考えた、そのように思っております。具体的な事実を提示していただいたので、より一層心配というのが少しは解消されたのではないかと考えております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 何か今の報告は、私が町長を助けたような感じなんですけど、本来は、町長、ここらあたりを調べて、大丈夫だということをやっぴりみんなに言わな納得してもらえんと思いますので、今後そういった、本当に大丈夫だということを出して事業を進めていただけたらと思っております。

次に、浜坂子育て支援センターのことをお伺いいたします。今現在、この役場庁舎の向かいにあるところでやっとなるわけなんですけど、浜坂子育て支援センターの役割ってどうでしょう。

これは、教育長、答弁お願いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 子育て支援センターは、認定こども園に在籍していない乳幼児を対象として、保護者と子供が安心して集って交流ができるような場所として、時間と場所を提供しています。子供たちがそこで触れ合ったりとか、社会的なマナーや生活

習慣とか、そういったことになれるような支援をしたり、また、子育てしておられるお母さん方の育児の相談だとか、不安を除くとか、そこで来られたお母さん方との交流の中から、そういった不安を取り除くだとか、そういったことの交流の場であると思っています。

現在ですけれども、登録されているのが33人なんですけれども、月当たりにしたら延べ200人ぐらいの方が利用されています。その中でいろんな取り組みがなされておりまして、リトミックやとかいろんな遊びを中心にいろんなことをされていますし、時には図書館に行って読み聞かせをしたりとか、そういった活動というか、そういう支援センターの役割をしております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 私が思うには、計画では浜坂認定こども園と併設をしてこの子育て支援センターをつくられるようなことでありますけど、私は浜坂子育て支援センターは別々でもいいんじゃないかと思っております。今の現在地でいいんじゃないかと思っております。この支援センターっていうのは、今、先ほど教育長が申されましたように、認定こども園に所属してない方が来られる施設ということで、いつ来られても受け入れできる、いつ帰られてもいいという施設だろうと思っておりますけど、そういったことで、一応集まってきた子供さんはもちろん、子育てをしているお母さん方の話し合いの場ということで随分重宝がられていると思うんですけど、私は別に統合しなくてもいいと思います。今、温泉では、ゆめっこ認定こども園が併設をしとるわけなんですけど、そこらあたり、やっぱり併設しなければならないということはいかがお考えでしょうか、お願いします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 併設しなければならないということはないんですけど、ゆめっこのほうで併設していることによって、職員同士の情報交換だとか、そういうことが連携がとりやすいということがメリットとしてあると思います。浜坂認定こども園に移すことで、そういった交流の機会だとか、また、親御さんが来られたときに、こども園に上げることへの、不安ではないでしょうけど、こんな形で教育、保育がなされているのかということが見る機会にもつながるのではないかと、そういったことで併設するのがいいのではないかと考えております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 先ほど職員同士の助け合いとか交流もあるでしょうけど、子育て支援センターの先生になる方、これはやっぱり、例えば保育の免許を持っていないといけないとかいうことじゃなくって、免許を持たなくとも職員として勤めれるというように思うわけなんですけど、そこらあたりはいかがでしょう、御答弁お願いします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 免許を持ってる方でなくってはならないんです。そういったことで、やっぱり専門的な観点から子育てをしていくというか、そこでもいろんなことを子供たちに伝えていただいていると思っています。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 教育長がそうって言われたらあれでしょうけど、僕はちょっと調べたら、一応免許はなくてもそこに勤めれるというようなことを書いていたと思うんですけど、そこらあたりはどうでしょう。また後で調べていただけたらと思いますけど、要は、やっぱり来られたお母さん方に助言をする、子育てのアドバイスをするという意味では当然免許を持った方がつかないかんでしょうけど、書物を見ましたら免許のない方でもできるということがありましたので、そこらあたり、答弁お願いします。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 子育て支援センターの職員といいますか指導員、それについては、やはり県なりの補助を受けてやってる事業ということもあります。当然その中には保育士の資格を持っている者ということもあります。やはりそういう知識と経験を持った者が、小さなお子さんをお持ちのお母さんたちの相談に乗ったり、行事を行ったりできるということで、そういうことが資格の要件となっております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） じゃあ、私の見解の違いというようなことでおさめておきたいと思います。

次に、これはちょっと追加させてもらったわけなんですけど、浜坂認定こども園整備に係る保護者アンケートの結果、きのうも同僚議員が質問されていたようなんですけど、私もここをちょっとお聞きしたいと思います。特に保護者の60%の方が現在地とその周辺でいいということをお聞きして回答しとるわけですし、また、293名の方からの、現在地での早期整備を求める要望書も出るということをお聞きしております。さらに、地域住民の方から議長宛てに提出された900名を超える要望書が出ているようでありますけど、このようなことを町長はどのように受けとめておられるかお伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 通告外ですけども、1回だけ。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地域の方々の大半といいますか、5割以上がこの現在の検討委員会の決定地を望んでいるということで、そういうぐあいに考えております。地域の、何ていいますか、声はそこになっているという判断をいたしております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 私は温泉地域で、実際、浜坂認定こども園の状況をよく知っているわけじゃないんですけど、やっぱり、とにかく子育て、特にゼロ歳児保育ができる環境を早く整えていただきたい、そのためには早く浜坂認定こども園の建設が必

要であると思っております。

これはちょっと余談になりますが、9月25日に浜坂認定こども園の5歳児の園児35名が、実は私の果樹園で梨狩りを体験してもらいました。教育長も御存じのはずですが、浜坂の子供たちが、梨狩りしたことあるかって聞いたときに、いや、ないというようなことで、随分喜んでいたので思い出されます。楽しそうに梨狩りをする園児を見て、園舎の建てかえを早くしたほうがいいなという思いであります。

それと、帰り際に、先生からこんなことを聞きました。教室の壁がめくれたり、大雨の日には雨漏りがするんだというようなことを聞かされて、何とかしてくださいよということを聞いたわけなんですけど、早期の建てかえを希望するものでありまして、そこらあたり、町長、決意をお伺いしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） できるだけ早く建てかえをやっていきたいと思っておりますし、議員の皆さんのぜひ御理解をそこにはいただきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 町長、雨漏りの件でも、雨漏りしてるっていったら修理するとか、対応するとか。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 雨漏りについては、早急に現場を見て、対応を考えます。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 早急に対処していただけたらと思っております。

続きまして、ふるさと納税についてお伺いしたいと思います。ふるさと納税について幾つか質問させていただきたいと思っております。

冒頭に申し上げましたように、私、議員になりまして初めての一般質問が、本町のふるさと納税の取り組みは消極的である、町の活性化のために積極的に取り組むべきと申し上げたと記憶しております。すると、今年度といいますか、平成30年度ですね、目標を1,000万円にするというようなことでもあります。これは低い目標と思いつつ、前年度の平成29年度が192万5,000円ですから、約5倍の金額を設定したものだと思っております。ところが、結果、6,300万円の御寄附をいただき、驚きと、本気を出せばこんなもんだと思いました。そして、31年度、次の目標が1億円、これはさすがに目標が高いなというふうにもまたこれも思いつつ、今現在の実績からすれば1億円を軽く超すような勢いだそうです。

平成20年度に総務省が取り組み始めてから12年たってますね。本町は10年おくれで本格スタートしたというところでもあります。今年度も目標のままのようですが、最近、議会での町長の答弁で、ふるさと納税を財源に充てるというような声をよく聞きます。特に私が子育て支援の提案などをしたときには、ふるさと納税を充てますというようなことをよく聞いたものです。この財源をもとに、どのように子育て支援をするのか、具体的に町長のお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ふるさと納税が飛躍的に伸びております。背景には、実は、非常に我が町の特色ある、例えば松葉ガニ、但馬牛など、本当に豊富な、何ていいますか、地域の産品がある。そういう背景があって飛躍的に伸びていると考えております。11月末現在、去年の件数にして約4倍、約2,300件あります。また、金額では2倍ということで、去年が約2,600万円ぐらいだったと思うんですけど、ことしは5,000万円突破ということで、数量で4倍、金額で2倍、こういう実績が出ております。地域の産品をふるさと納税に使うことで、商品を提供していただいております。事業所も非常に、売り上げアップなど活性化につながっているということで、大きな成果が出ていると考えております。また、ふるさと納税の約半分が町の新たな財源として使えるということで、非常にいい流れができていますと考えております。

当町、非常に子供の出生数、出生率も低いという、そういう流れの中、やはり次代を担う子供たちの環境をきちり整備する必要があると思います。ふるさと納税の約2割から3割近くが子供たちのために使ってほしい、こういう現状もあります。自由に使ってほしいというのが約4割あるんですけど、次に多いのがやはり子供たちのために使ってほしい、こういうふるさと納税の現状はありますし、そういった要望に応えるためにもやはりこのふるさと納税を有効に、子育て環境の充実に使っていききたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 大きくそのようにあれなんですけど、実際、個々に具体的なことは申し上げられませんかね。そこらあたり、具体的にお答え願いたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町民懇談会でいろいろな御意見をいただいております。例えば浜坂高校における通学の定期などをぜひ補助を出してほしい、通学補助、無料にしてほしい、こういう御意見もいただいております。現在、鳥取のほうの高校が当町まで迎えに来て、当町の生徒が鳥取に通っているという現状もありますし、浜坂高校はもっともっと元気になる、行きたくなる学校、そういう位置づけをつくっていくためにも、ぜひ、高校も含めて、そういうふるさと納税でいただいた有効なお金を使わせていただきたいと思いますと考えております。

また、これは来年度の予算になるんですけど、高校生までの医療費の無償化など、こういった面も今検討いたしております。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 今、町長から先に浜坂高校生の通学費のことが出ました。2つ目にそれを上げていたわけなんですけど、やっぱり、昨年度ですか、浜坂高校、定員割れをしたということでもあります。その定員割れの、どういったらいいですか、はやっぱり、先ほど言ったように、鳥取の私立高校のスクールバスが迎えに来るというよう

なことがあるからだということで思っておりますが、今年度はまた定員を少しオーバーしておるようであります。流れがあるのか、通常2クラスで定員割れっていったら、本当に浜坂高校は危機的な状況になるところなんですけど、何とか定員をキープすれば大丈夫かなという思いでおります。そういったことで、以前、私の子供のときには、例えば春來の生徒はバスで浜高まで通学するのに定期を買って3万円ぐらいかかったそうです。今は町民バスを使うからそれほど多くはかからないと思うんですけど、でも、やっぱりそういったことで、通学費の助成ないし無料化をしてあげたら本当に浜坂高校に残る生徒がふえるんじゃないかという思いでおりますので、御検討をお願いしたいと思っております。

それとあわせて、先ほど町長の、以前私が申しました医療費の範囲を広げてほしい、拡充をしてほしいということで、高校卒業するまで医療費の無償化ということを申し上げていたところ、検討していただいとるようですので、ぜひ実現するようにお願いしたいと思っております。

これも、前回ですか、同僚議員から出ておりました給食費につきましても、保育料の無償化ということで上がって、給食費だけが残るとということであったんですけど、これも、給食費の無償化もひとつ御検討願いたいと思っております。

あと、出産祝い金であるとか、入学祝い金であるとか、いろいろ出ておりましたが、先ほども申しましたように、子供に投資して何が悪いんだというような、町長もよく言われるんですけど、そこらあたり、ふるさと納税の財源を使って、そういった子育てに力を入れていただけたらと思っております。

先ほども言いましたように、町長、おんせん天国ということでも、がんがんやっておるようです。それに、子育て環境のよい新温泉町をPRするためにどんどん、どういったらいいですか、環境をよくするためにお金を使って、都会に出ている息子さんであるとか娘さんに帰ってきてもらう、これは結婚している息子さん、娘さんのことなんですけど、やっぱり帰ってきていただいて新温泉町で子育てをする、そして人口をふやすというような施策にしてもらいたいなという思いでおります。子育て支援を惜しみなくやっていただきたいと思っております。

町長、いかがでしょうか。御答弁お願いします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 明石市が子育て環境がすばらしいということで、人口がどんどんふえているということを聞いております。子育て環境はいい町だといううわさが広まれば、やはり当町の子供たちがふえる、人口がふえる、いろんな活性化につながると考えております。そのためにも、ぜひこういった貴重なふるさと納税を活用することで、より一層子育て環境の充実を図って、うわさがうわさを呼んで町の人口がふえるような、そういう方向をこの納税制度を使ってやっていきたい、そんなふうに思っております。

○議長（中井 勝君） 個々、具体的に提案がありましたけど、その回答はいいですか。

○町長（西村 銀三君） 給食費のあり方については、現在検討いたしております。特に認定こども園の給食費については、できるだけ半額なり無償化なり、そういう方向を出しております。ただ、小・中学校については、今のところまだ財源が足りないということで、今後の検討課題ということになっております。

○議長（中井 勝君） いいですか。

4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） よろしくと言ったらいけませんね、検討をお願いしたいと思います。

次に、鳥獣処理施設についてということで、鳥獣ということは使いたくないんですけど、処理施設についてお伺いしたいと思います。

有害鳥獣の処理施設が10月1日に完成しまして、念願の処理施設が稼働し、安堵しているところであります。当初はバクテリアでの減容化施設からペットフードへの転換、また、設置場所も多子の十字谷から塩山へと変更するなど、本当に一時は一体いつになるんだという思いで心配していたわけなんですけど、10月に完成しまして安心したというか、よかったというのが本音であります。

さきの総務産建常任委員会で施設の処理状況の説明があり、おおむね理解しているつもりなんですけど、今後の取り組みを何点かお伺いしたいと思います。

塩山、飯野、中辻、3地区でのメンバーで構成されている監視委員会で、当初予定していなかった狩猟期間中の個体の受け入れと、土曜日の解体業務の実施が承認されとありました。狩猟期になると、猟銃で捕獲するとか、ライフルで捕獲するとかという状況で捕獲されると思うんですけど、こういった散弾銃で捕獲したイノシシ、鹿の受け入れ体制はできているのかお伺いしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、現状についてお答えをいたします。搬入可能日、それから搬入時間などについては、捕獲した個体を処理施設へ搬入できる日、それから搬入できる時間についてであります。現在のところ、役場の開庁時、それから開庁時間に合わせております。このことは、処理施設が我が町で初めて設置した施設であり、供用開始後において予期せぬ事態が発生した場合、職員が迅速に対応できるようにするためであります。また、施設の利便性、利用率の向上のため、受け入れ日、それから受け入れ時間の拡大は必要と考えております。11月5日にも監視委員会を開いていただき、狩猟期間中の個体の受け入れも御承認をいただいたところであります。有害捕獲期間、狩猟後も引き続き受け入れを行っております。

以上のような現状であります。

○議長（中井 勝君） 質問に答えてませんが、銃を使った搬入はという。

○町長（西村 銀三君） 詳しい内容について、担当課長がお答えいたします。

○議長（中井 勝君） 松岡農林水産課長。

○農林水産課長（松岡 清和君） 基本的に受け入れは可能と考えておりますけども、ペットフード会社とも協議をしながら進めていく必要があるということも考えておるところでございます。以上です。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 検討していただけたらと思うわけなんですけど、狩猟期といいますと、やっぱり有害のときに比べると、捕獲しても補助金が少ないというような意味合いで、どういったらいいですか、わなでとるよりは猟銃を使ってという時期でありますので、鋭意、そういった個体も受け入れる方向で検討していただけたらと思っております。

それと、先ほど土曜日には解体業務をするということなんですけど、土曜日に捕獲した個体はいつ受け入れるのか、または、2日間放置するから受け入れできないということと埋没せないかんのか、そこらあたりのことをお伺いしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 担当課長がお答えいたします。

○議長（中井 勝君） 松岡農林水産課長。

○農林水産課長（松岡 清和君） 受け入れの関係で、これまで金曜日に冷蔵庫とか満杯になるということもありましたので、監視委員会の中で御協議をいただいて、解体については月曜日の受け入れに支障がないようにということで、土曜日でも解体をしたいんだという解体従事者の意向がありましたので、御説明をさせていただいて、御承認をいただいたという状況でございます。土曜日に捕獲したイノシシ等は当然、土曜日には受け入れはしておりませんので、月曜日以降になると考えております。以上です。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） ということは、やっぱり日にちがたつ、じゃあ、月曜日に受け入れしても可能なものですか。それとも、やっぱり期間が過ぎているから搬入できないということか、そこらあたりの見解をお答え願いたいと思います。

○議長（中井 勝君） 松岡農林水産課長。

○農林水産課長（松岡 清和君） 気温等の関係もあるかもわかりませんし、そういったことで、状況を確認しながら対応していく必要があると考えております。以上です。

○議長（中井 勝君） 4番、重本静男君。

○議員（4番 重本 静男君） 次に、この間、委員会で報告受けたときに、頭数はかなりふえているわけなんですけど、持ち込みの、浜坂地区の方の持ち込みが少ないということをお聞きしました。そこで、私は何とか浜坂地区の方にも持ち込んでいただきたいという思いで、これはあれですか、赤崎に町所有の冷蔵庫があると思うんですけど、糸城に。例えば冷蔵庫を使って、そこまで持っていくとかいう考えはありませんか。どうでしょう、お伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 場所は違いますよね。

○議員（４番 重本 静男君） 違うんかいな。

○議長（中井 勝君） 赤崎とあそこは違いますよ、指杭だと思いますけど。

答弁、こっちか、西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状の処理施設の運営状況を見ながら、今後検討していきたい
と思います。

○議長（中井 勝君） ４番、重本静男君。

○議員（４番 重本 静男君） ということは、まだ、今すぐ浜坂地区の方の持ち込み場
所はやらないということよろしいでしょうか、お伺いします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今のところ考えておりませんが、地域の実態を確認しながら
今後検討いたします。

○議長（中井 勝君） ４番、重本静男君。

○議員（４番 重本 静男君） やっぱり私の提案で、浜坂に１基ぐらい冷蔵庫を設置し
て、そこまで、どういったらいいですか、捕獲班の方に持ってきていただいて、その後、
その冷蔵庫から、翌日でも役場の職員ないし猟友会のメンバーの方が塩山まで運ぶとい
うようなルートも検討していただけたらと思います。

そしたら、その後、総務産建常任委員会で今、同僚議員の提案があったわけなんです
けど、将来的に本町でペットフードの生産、販売、これができる会社を設立してはどう
かということが出ていたわけなんですけど、そこらあたり、町長のお考えをお聞かせく
ださい。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 多可町では障がい者雇用ということで、非常にたくさんの方が
そこで働いているということを聞いておりますし、障がい者のみならず、働く場が少し
でもふえればいいなという思いもありますので、今後の検討課題としたいと思います。

○議長（中井 勝君） ４番、重本静男君。

○議員（４番 重本 静男君） よろしくお願ひ申し上げます。

それと、ここでちょっとお時間いただきまして、ペットフードの会社、私も１１月２
１日に特定非営利活動法人c a m b i oに視察に行っていました。これは、私の所
属する特産振興会の研修会で行ったわけなんですけど、最初は多可町ということだった
んですけど、そこに行くんだったらぜひここにも行ってほしいということ言ったとこ
ろ、通りまして、行ってまいりました。先ほど提案しましたように、我が町でもこうい
った、これはサンプルでありますけど、鹿の要はペットフードです。こういった感じで、
これを、先ほど言った障がい者の方たちがこういった袋詰めをして売るとということ
であります。

ここで、こういった袋詰めをして販売をしているわけなんですけど、どんどん生産で
きればいいんですけど、今のところはそれほど多くないということで、道の駅であると

かインターネットで販売しているというところぐらいで、大型店、要はスーパーとかでは売っていないということでもあります。これが、例えば小さい分で880円で売ってましたし、ちょっと大きなんが1,650円、大きなんが1,980円ということでもあります。私たちペットフードといったら、猫や犬が食べるのだから、少々日がたってもいんじやないかという思いでおったわけなんですけど、都会の方のやっぱり感覚っていうのはすごいもので、もう人間と変わらないような取り扱いをしているということでもあります。

前回も出ておりましたが、今、豚コレラが地区で出ていたということで、今、c a m b i oさんも豚コレラについてちょっと神経質になっておりまして、イノシシの肉を受け入れをちょっと渋るような状況はあろうかと思えます。そこらあたりはまた町当局、c a m b i oさんと検討していただきまして、できるだけ滞らないように販売を検討してもらうように働きかけていただけたらと思えます。

時間が参りました。以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中井 勝君） これをもって重本静男君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

午前11時34分休憩

午前11時45分再開

○議長（中井 勝君） それでは、休憩を閉じ、再開いたします。

次に、13番、中井次郎君の質問を許可します。

13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） それでは、3点にわたって質問をさせていただきます。

第1点目は、浜坂認定こども園改築問題であります。第二期新温泉町立浜坂認定こども園整備検討委員会の候補地は、現在地プラス周辺での建てかえであります。第一期検討委員会は平成28年5月から始まって平成29年6月、第二期検討委員会は平成30年6月から令和元年9月まで、長きにわたり検討された委員の皆さんに敬意を表したいと思います。特に副委員長をされたNさんは、この2つの検討委員会について副委員長をやっておられました。そういうことでもあります。

特にこの間、国のデータによる津波ありから、兵庫県のハザードマップにより津波の心配はなしに大きく転換したことが背景にあるからであります。その背景のもとでも、幼児の施設ということで、どう安心・安全を確保するかについて真剣に議論されました。両検討委員会の会議録を読ませていただきましたが、そのことを本当に強く感じることであります。

第二期のアドバイザーである遠藤由美子、鳥取環境大学副学長も最後の会議で、こういった検討委員会で最も大切なことは合意形成だと思うと、まさに建設的な意見の積み上げであったと、非常によくできた報告書だと、自信を持って進めていただきたい、こ

のような感想を述べております。町長はどのような評価をされてるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 検討委員会の報告、これは非常に重みがあると考えております。そういった意味で、検討委員会に諮問していただいたこういう結論はきっちりと受けとめて、今後の対応に生かしていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 番号を忘れてました。ちょっと建物の現状について、先ほどちらっと出ましたけども、私、11月26日に現場を見てまいりました。職員の方からも、いろいろと実情を見て、教えていただきました。現在の建物は昭和53年に新築され、建築されてから40年以上経過しており、改築が急がれるわけですが、今いろいろと見た中では、雨漏り、サッシなどをあけても閉めることができない、壁が落ちる、4歳児の部屋の床はささくれ立っており、ガムテープで補修しています。雨漏りについては、おけていますか、そういうもんがその下にはまだ置いておりました。職員からは一日も早く改築をとの声が聞かれたわけがあります。これについては、現場の状況を当局はどのように認識をされてますか、それをお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教育長からお答えをさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） こども園に行くたびに、今、議員からおっしゃっていただいたように、施設面でも本当に苦勞をかけてるなど。狭い園舎の中でいろんな工夫をしながら、教育、保育に当たっていただいているということを本当に心苦しくというか、申しわけない、早く建設が急がれるなどということを思っています。いろんなところで修繕が要る箇所を連絡をもらって、その都度修繕をしていっているんですけども、子供がささくれ立った床のところだけがをしたというようなこともこの間、実際にありましたし、その都度トイレの修繕やとか、いろんなことはしていっているんですけども、そこをきちんとまだしていけない園舎だなということは理解をしております。

○町長（西村 銀三君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 13番。修繕したりとか、この前ささくれ立ったところはガムテープが張ってあったんです、これ。大変な状況だと思うわけです。

それと、やっぱり行きて一番感じるのは、部屋を見て、そこに入ってる子供たちがもう本当に、はっきり言ったら、棚だとか倉庫も余らないんで、芋の子を洗うと云ったら極端な話になりますけども、これは狭いなという感じがするんです。倉庫が遊戯室にあるわけですけど、そこも極めてずっと山のごとく積んであるんですね。本当にこういう実情を見て、これより、早く、広い、そして倉庫も十分ある、各部屋に棚もきちっとあって、それからもう一つは、職員室がもと倉庫ですよ、あれ。それで、実際にそこに座るスペースがないんですね。それこそ職員はそういったところで、だから、園児ととも

にそっちだけであるという形になってます。

こういう実情をどう思われますか。余りにもちょっとひど過ぎるんじゃないですか、今。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 園に行つて職員室をのぞいたときに、ここで教材研究というか、本当にほっとする場所がないなということはもう一番に感じました。この狭い部屋の中で、教育、保育するための教材研究するスペースというか、ほっとできる場所はないなということはすごく感じております。そして、廊下にいろいろなものが出てたりとか、もう本当に狭い中でできる工夫を全てしていただいているのだなということはすごく感じてますし、教育委員の皆さんの訪問の中でもやはりそのことは話題になりまして、先生方の苦労を何とでも早く解消せなアカンことではないかということも、教育委員の方からも御意見いただいております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） そういう中で、もう職員の中からは早いのが一番だと、そういう声が出てるぐらいですね。現在地で建てかえをしたいと、してくれということは切実に言われました。

こういう中で、次にお尋ねしますが、現在地で改築した場合やら移転改築、こういったときに土地の取得にかかる時間はどうなのか。現在地で、横が農地であります。あれは第一農会ですか、第二農会かよくわからんのですけども、ここの土地に関しては購入はすぐできるのでしょうか。

それから、総務教育常任委員会で議員の方から提案があった、味原川放水路横の道路を渡ったとこ、いわゆるハスが毎年きれいな花が咲くんですけども、あの付近の農地の買収、こういったことにかかる時間はどの程度のものなのか、それをまずお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 土地の取得にかかる時間なんですけれども、現在地ということであれば、買い足しというか、農地転用の場合、申請から少なくとも許可までは3カ月ぐらいかかるのではないかと、そういう見込みをしております。

もう1カ所の件については……。

○議長（中井 勝君） わからなければ、わからないと言ってくれたら結構ですよ。

○教育長（西村 松代君） 済みません、わかりません。申しわけありません。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） どなたかの答弁に副町長が答えた、不確かでありますけれども、いわゆる測量事務所のあるところあります、浜坂になります。わかりますか。わからんだったらいいです、もう。これ以上聞いたってわからない。

総務教育常任委員会の中で議員から提案があったと、私は傍聴席にいましたので聞

いと思ったんですけど、これだけ言えば場所も特定できるだろうなど。買収にかかわる問題ですから余り言いたくないんですけど、わからなければ結構です。

そうすると、あれですね、買い足し、いわゆる、ですから3カ月ぐらいで購入が可能だということですか、現在地のあれでいえば、どちらも。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 用地につきましては、地権者につきましては両方も3名ずつおられます。地権者につきましては、もしそういうふうになったらというお話をさせていただいたときには前向きなお話をさせていただいておりますので、もしここということになれば譲っていただけたらと思います。

あとは、いろんな用地の手続ということで、先ほど教育長も言いましたけども、農地転用とかの手続で申請から許可まで3カ月かかるとか、そういうことがございますので、そこら辺のところをしっかりとかかる期間を計算しながら、計画的に事業を進めていきたいと思っております。以上です。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） なかなか明確に、その3カ月というのは何なんですか。今、教育長が言われた3カ月ぐらいというのは、ただ単なる用地交渉ですか。

私は、あそこら辺の地権者の方ともお話ししたことがあるんですけども、要は昔からあそこは、周りの土地については、園がいわゆるもっと大きく広くなるとか、そういう場合には即対応すると、これをしなきゃならないということで先祖から聞いてますという話が出てるんです。そこら辺のとは、何も予定地だということでもありますけども、こういった議会に出るときには買収についてもどの程度でできるのか、金額は結構ですんで、時間的なものぐらいはやっぱりきちっとお答えをいただきたいと思うんですけど、わかりませんか。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 先ほど言った3カ月というのは、農振の申請をして、農振地域からの解除になる期間ということでございます。先ほども言いましたように用地につきましては、地権者の方には、もしその場所になったらということで、そのときには譲っていただけたらというふうな、そういうお話をいただいておりますので、どちらにしましても、今回不動産鑑定の見直し予算をオーケーしていただけたら、プロポーザルを行いながら住民説明会を行うとか、そういうことをやりながら用地買収をしていきたいと思っております。以上です。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） それでは、次の質問に移らせていただきます。

第一、第二期浜坂認定こども園整備検討委員会の会議録を両方とも読ませてもらいました。第一期の会議録では、国の防災計画の中で最大津波の高さが3.4メートル、浜坂認定こども園の海拔は3.1メートルであり、平成30年を目途に移転新築をしたいと

のことでした。

これは、目途に移転新築をしたいというのは、前町長が委員会の中で言ってることであります。その後、すこやか広場が候補地となりましたが、すこやか広場の地元や利用者、体育協会から反対の声が出ました。それに加えて、平成30年度自治連合会からも、要望書の中で、移転先候補地の再検討を求めるとの要望書が提出されたわけでありまして、その結果、候補地選定が暗礁に乗り上げたわけでありまして。

その後、平成30年3月に兵庫県の津波データが発表され、現在地で津波の問題がない、こういうことになりました。

第二期検討委員会は、現在地プラス周辺で改築を町長に提案されたわけでありまして、当然、会議の中では、津波データをつくられた県の職員に説明をしていただいています。これが大まかな経過だと思いますが、どうでしょうか、町長、お答えください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員のおっしゃるとおりだと認識をいたしております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 次に、園と幼児の安全性について質問をさせていただきます。

私は、この問題を考えるときには、2つの観点から考えるべきだと考えてます。自然災害と、あってはならないことではありますが、不審者が侵入した場合はどうなのか。これについては、不審者の問題では、11月25日、浜坂認定こども園では防犯訓練をされています。そういうことも年間の中にあるわけでありまして。そういう中で、自然災害が起こったとき、起こる前の警報が出たときにはどうするのか。こども園は、午前6時30分までに警報が出た場合は休園とすると、登園後は保護者が迎えに来るという要綱を決めています。そして、どうしても親たちとか家族がもう来れない場合は、園と相談の上で適切な安全対策をとると、こういうことになっております。

現在地では郵便局や民間スーパー、図書館などがあり、多くの町民の目が行き届く場所です。災害時とかあってはならないことですが、不審者が侵入した場合などにも十分対応できるのではと思います。防犯訓練のときに、私は近所にもお聞きしたんですけども、そのときにパトカーが前にとまっていたと、園の。そうしたら、御近所の人たちが、何かあったのかということで駆けつけたというわけで、そのぐらい、いわゆる地域の目がしっかりと届いている場所であるということでもあります。

この警報が出た場合の措置については、これは新温泉町の認定こども園全てに出されてるんでしょうか。こういうやり方をするという要綱が全ての親に出されてるんでしょうか。その趣旨とは、どうしてこういうものを出しているのか、その趣旨をお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、警報の件を言っていたいたんですけども、全園にそう

いったことで周知を町としてしております。学校等にもしているところです。それはやっぱり子供たちの安全を考えて、警報が出た場合には家で過ごすということで周知をしているところです。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 過去のいろいろと自然災害のことも調べてみました。地元の新聞によれば、これは平成2年の9月21日付であります。これは平成2年の19号台風のちょうど過ぎた日ではありますが、そのときには、9月17日から20日までに降った雨量は400ミリを超えていると。そして、新聞の見出しは、100年に1度の水害だとか大きく報じているわけであります。このときにも園舎はつかることなく、私は道路がつかったのかどうなのかわかりませんが、これまでいろんな方たちに聞いても、園舎がつかったことはないということでありまして。これぐらい一つは100年に1度のそういう水害にも園舎は耐えてると、園庭もつかってないと、こういうことでもあります。

不審者が入った場合の対応などはどのように考えておられますか。この今の御時世ですから、ないとは限りません。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 不審者対応につきましては、門扉、出入りに鍵はもちろんかけるんですけど、防犯カメラを設置して、職員室でモニターで一括して見れるようなことを浜坂認定こども園についても整備する予定です。県警のホットラインというのがあって、すぐに不審者が入ればつながるようなシステムも導入しておりますので、そういったときには県警につながりますので、すぐ来ていただくようなことも考えてやっております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 私は思うんですけども、民間スーパーとか、それから郵便局とか、やっぱりああいったところと援助協定っていいですか、この安心の関係で、何かあるときには助けてくれますかというところ、どこでもなんですけどね。目立つところなんですけども、ぜひそういうもんを結ぶべきだと。それは十分可能だと私は思うんで、提案をしときたいと思います。

次に、すこやか広場も当初の1期目の最終の候補地として上がってたわけなんですけども、それについて海拔は7.4メートル、いわゆるBGのところですからちょっとずれるかもわからんなんですけども、7.4メートルの海拔があるようであります。津波や洪水には現在のあれよりも安全かなと思うんです、現在地より。しかしながら、あそこ自身が本当にそういう不審者とか犯罪に対応できるのかどうかと。極めて昼間は静かなところなんです。以前は若い方たちもおられて、住宅街も若い方たち多かったです。ところが、やっぱり今は高齢の方が多いわけであります。それはどうも犯罪に対応できるのかって考えたら、ちょっと無理のようであります。そして、兵庫県のハザードマップでは、土砂

災害のおそれがあると、こういうことも一つは新たに出てきたわけであります。

そういった中で、私は先日、元自治会長のAさんにお会いをしてまいりました。そして、なぜ当時反対をされたのですかと率直にお聞きしますと、認定こども園が来ると車の出入りが多くなり、現在でも道が狭いと。いわゆる南線から中学校に上がるあそこまで道が広いけども、そこだけだと。狭くて、いわゆる危険がふえると。そのことについて事前に何の相談もなかったと。それで、すこやか広場は、昼間グラウンドゴルフ、夜は社会人がナイトスポーツをしていると。かわりの施設を提案せずに強行することは許せない、このように怒っておられました。私も当時この案が出たときには、この議場で問題ありと。要は年間1万3,000人からの方が、延べですが、使っておられる施設で、それを町にとって大切な子供の施設であります、代替地についてきちっと対応するべきだと、そのための返答は聞かれなかったわけであります。今さらながらの話になりますけども、すこやか広場に例えばもう一度向かうかっていうような気持ちはございますか。ちょっとお尋ねをしておきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 過去の経緯から見ても、すこやか広場を再候補地にするというのは非常に難しいと思っておりますし、現状、いろんなアンケート、それから住民の要望書も出ております。そういったいろんな観点から考えても、すこやかは非常に厳しいと、無理だと考えております。

○議長（中井 勝君） もう1点、災害協定を結んだらってという提案がありましたけど、答弁がなかったけど。

西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 先ほど議員から、パトカーがとまったときに近所の方が来ていただいたというようなことで、地域と一緒に防災訓練をすとか、そういったことも前、経験もあるんですけど、そういったことで近くに大人の手がたくさんあるということで、今後考えていくことは必要かなというところは、今考えております。たくさん大人の手がすぐに子供のところに入るということも非常に大切なことだと今、感じております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） すこやか広場についてはそういうことであります。

もう1点、ちょっと聞き漏らしておりましたので。この総務教育常任委員会の資料をいただきましたけども、これの30ページに、建てかえ候補地を現在地周辺にするに当たっての防災上の対策についてというのがございます。課題としては、降水時に最大約1.9メートル、2.2メートル浸水した場合の対策ということでありますが、新園舎の地盤をかさ上げをすると、かさ上げ造成後は約4メートルだと。これは今のいわゆる園庭、園の庭ですね、これより新しく求める土地は、最終的には現在の高さよりもっと高くなるということでしょうか、いわゆる今園舎が建ってるそこ。それからもう一つは、右な

ら右でもいいんですけども、それは何ぼ現在の園庭から高くなるのか。それをお答えをいただきたいと思います。

それと、新園舎の遊戯室を2階に設置するっていうことでもありますので、これは明星認定こども園と同じような形になるんでしょうか。あそこは遊戯室が2階部分になると思うんですよ、階段で上がって行って。それを、いう形になるんでしょうか。ちょっとどういう形になるのか、教えてください。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 新園舎で4メートルかさ上げした後の高さということでございます。今、現在地プラス北側、東側ということで、北側で海拔が約1.8メートル、東側で2メートルということでございます。今の園舎の園庭が3.1メートルでございます。今、例えば東で海拔が2メートルとすると、それを2メートルかさ上げすることによりまして、こっちが3.1メートルですので、これが4メートルになりますので、約90センチ今の園庭より高くなるということでございます。

明星認定こども園の遊戯室が2階にあって、今階段で上がっているというふうなことがあります。階段ということもあるんですけども、この30ページにもありますように、対策の③ということで、非常時に2階等に避難するというのも、そのときにはスムーズに上がるということもありますので、スロープや手すりを設置するということも考えております。以上です。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 大体わかりました。

それと同じく、同じページなんですけども、車椅子などでも上がりやすいように対応すると、スロープ等を設置する。これどんな感じになるんでしょうか。本当にスロープを設置して、自力で上がるのか押して上がるのかで全然違うんですけども、いわゆる傾斜は相当緩い。そうしますと、相当な長さでスロープを設置しなきゃならないというふうになるわけなんですけども、そのいわゆる勾配は一体どの程度になるんでしょう。わかりますか。わからなければまた後日、後でもいいですけど。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 勾配的にはわかりませんが、やはりスロープというものが安全に上がれる角度というのがあるというふうに思います。車椅子などはそこを押して上がって、危険がないような角度というふうなことだというふうに考えております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） もう一つ聞きたいんですけども、屋上を設置すると。これ全部の園舎が2階になるんでしょうか。2階建てっていうことになるんですか。それで2階の屋上は、要はヘリコプターがいわゆる着陸できるだけの強い、いわゆるしっかりした建物になるんでしょうか。その点どうですか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 着陸というより、よくテレビで出てると思うんですけど、ロープで引き上げるとか、そういった形というふうになんかちょっと今思ってるんですけど。（発言する者あり）済みません。

○議長（中井 勝君） 長谷阪こども教育課長。

○こども教育課長（長谷阪 治君） 全部が2階になるのかということもあったと思います。建物がありまして、その2階の遊戯室の部分ということで、2階は遊戯室、そこを出てそういう救助ができるというか、そういうふうな屋上というふうなことで、2階全部が遊戯室というわけではなくて、遊戯室の部分、そこで非常時にヘリコプター等で避難できる場所というふうなことでございます。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 申し上げておきますけど、大人をつり上げるんだったら話は別なんですけども、本当に幼児でしょう。こういうことがないとは思いますが。そういったところ辺は、金を出し渋るんじゃなくてしっかりした建物にして、例えばそういうことも考えるべきだと思いますよ。予算的なものはいろいろと議員の皆さんも心配しておられるんで、どうなのかなと思うんですけども、ぜひそこら辺のところをお考えをいただきたいと思います。

それから、第二期の検討委員会の皆さんが、これはこの報告書については全会一致でしょうか。昨日、同僚議員の質問に、出席した方は全員が一致でしたと。それで、何かその後が、4人欠席者はあったけども、その答えがどうもはっきり私は聞き取れなかったんでね。きちっと、私この件で会長さんに尋ねに行ったんです、どうなんですかと。全員が一致されたんですかって言ったら、全員が一致しましたと。確かめました。欠席者があったっていうのは知らなかったものですから。それはどうなんでしょう。検討委員会では全会一致でこの報告が承認されたのか、お尋ねをいたします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 検討委員会の中で、委員長から一人一人に候補地についてここで大丈夫ですかというようなことで確認をされて、結果、満場一致で決まりました。その中で、委員さんの中には意見を求められたときに涙ながらに、子供たちのために早期に建設をお願いしたいという訴えの声もありましたし、満場一致でした。

○議長（中井 勝君） 欠席した方という質問ですよ。

○教育長（西村 松代君） 欠席した委員につきましても、一人一人きちんと確認をしております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 結局、全会一致でここになったということですね。それだけを再度確認しておきます。

私は、100%っていう安全の確率っていうのはないと思うんです、どこだって。東

日本大震災のあれをいろいろと調べてみますと、川を津波がだあっと上がってきて、これを遡上って言うんですね。恐らくアユが遡上するっていうのと一緒に字なんですけども、そのときの高さが41メートルということで、津波はいろいろと観測したところで違うわけですけど、最高で15メートルと、大体そういうあれになってます。そういう中で、この想定外の話がいろいろと出てきますので、浜坂の中で芦屋、浜坂で、この中で海拔の書類を見せていただいたんです。そうすると、41メートル超えてるのは浜坂中学校のみなんです。これが50メートルやね。要は、本当にどこがそういう想定外の津波が来たときに耐えられるかって。これが本当に今、そこまで考える必要があるのかどうなのか。それも一つ、私はやっぱり人の手による、そういう子供たちを、施設を見守っていただく、いざとなったらそれなりにあれしていただく。ふだんから、聞きましたら、隣保館といいますか、文化会館にいわゆる避難訓練もしてるということを聞いてます。だから、そういうことも考えたら、現在のところで決して100%とは言いませんけども、いわゆる自然災害、そしてそういう人的な災害、いわゆる犯罪ですね、そういったところにきちっと対応できるのではないかということで、私は考えておるところであります。これらについて意見があれば言ってください。

○議長（中井 勝君） 質問ですよ。

○議員（13番 中井 次郎君） え。

○議長（中井 勝君） 意見を聞いているんじゃないですよ、質問ですよ。

○議員（13番 中井 次郎君） そうそう、答えを聞いている。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 大地震、大災害、想定外が必ずあります。想定してないところの想定外ということで、いつ何が起こるかわからないという、そういう状況があると思います。ぜひそういった意味でも、より安全は、今回の台風19号、絶対安全はあり得ないということを知らせてくれたように思っております。人を助けるのは人しかありません。そういった意味で、ぜひ皆さんから検討委員会やいろんな町の要望書、そういったものの中で、やはり候補地、今の提案いただいた候補地を推薦、適地として対応を考えていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 私は、阪神大震災が1995年の1月17日に起きたわけですが、そういう中で、大変大きく火災もなかった、死者も少なかった、そういう地域が神戸の中にあるんです。長田区というところが、あそこは私も当時行きました。もう焼けただれてました。何という惨状かなと思えました。戦後のああいう写真で見ただけでありますけども、私、戦後生まれですけども、そういう中で、特に真野っていうところがあるわけがありますけども、この地震では全体では5,500人以上の死者が出たわけです。ところがこの真野地域も、地震によって2,400世帯、3割が全半壊だったと。それに対して、そのときに地区内の一角から火の手が上がりましたと。住民は

いち早くバケツリレー、火災に立ち向かいましたと。奇跡的に40戸ほどの焼失で延焼を食い止めた。すぐ北側、長田区の。そこでは900棟以上を焼いた、これに比べれば初期消火が大切だったということ、地元の区長さんが言われています。こういう中で、なぜこういうことができたのか。16の自治会が自主的なまちづくり活動を30年間やってきたと。そういう中で、極めてお互いのつながりができていたと。いざ何か起こったら、何かそうやってバケツ持って水かけると。本当に私はそういうことを見る中で、震災はとめることができません、自然災害ですから。しかしながら、それが起きたときにどう人間が対応するか、そういうことがふだんからできているか。このことは、子供たちの大切な施設を建てる場合も、やっぱりその近所との関係をしっかりしていくことが、私は最終的には大事だろうとこのように思うので、ぜひそのことを教訓にお考えをいただきたいと思います。

では、次の質問に移らせていただきます。（発言する者あり）何。

○議長（中井 勝君） どうぞどうぞ、もうこれだけです。（発言する者あり）

○議員（13番 中井 次郎君） どうですか、いいですか。一応皆さんの同意を得ましたのでさせていただきます。済みません。

次に、私はこの認定こども園を建てた場合、大庭認定こども園と統合すべしとの意見もきのうも聞かれました。そのことについて、私は園がなくなることにより地元の元気が失われると、そのことを心配しています。そして過去、財政を心配して、旧町では中学校、小学校、幼稚園、保育園を統合してきたわけであります。その結果、子供の数がふえてるのかいったらやっぱり減少してるんです。子育ての環境は今、どこの町でも将来のこともあるからって頑張ってます。子育てがいわゆる全てではないんですけども、減少の。でもやっぱり、本当に地域からそういう小さい子の園舎がなくなるっていうのは、極めて地域の元気をなくす。私はいつも言うんですけども、桐岡が、旧温泉の。あそこに幼稚園と保育園があったんです。運動会をやったら、近所中、おばあちゃんやらじいちゃんやら、自分の孫でないけどもどンドンむしろ、いわゆるごさをひいて応援すると。ところが今は、もう幼稚園もなくなった、保育園もなくなった、それから小学校は上へ上がってもうた、中学校にね。そしたら、もういいんとしてるんです。やっぱりそういうことを一つは考えてみるべきだと思うんです。確かに財政的に厳しい、こういう意見がありますけども、雇用があり、保育士さんを雇う雇用がある、それから職員給与や園の購買などによる地域経済、こういったこともきちっと考えるべきじゃないか。やっぱり因果関係が私はあるように思うんです。それをぜひお考えいただきたいんですけど、ちょっと答えだけ。

○議長（中井 勝君） 西村町長。言いましたよ。

○町長（西村 銀三君） 議員がおっしゃるとおり保育園がなくなった今の桐岡、照来地区の現状を聞く中、本当に保育園、幼稚園、小学校、この存在は大変地域にとっては大きい存在だと思っております。やはりそういった、親が、おばあちゃん、おじいちゃん

が気軽に見ていける、そういう特に子育てのときは、おじいちゃん、おばあちゃんの役割って大変大きいです。近くにそういった施設があるということは、いろんな意味で町の、村の活性化といいますか、村の維持に非常に重要な役割を果たしていると思っております。そういった意味で、この保育園問題、その地域がどう生きるか、新温泉町の将来を担う子供たち、そこでまた働くという雇用の場、それから今言われた経済的なもの、そういったものを勘案すると、やはりこの保育園の存在、より近くにあると、住んでいる近くにあるということが最も大事な要件ではないか。これは過去のそういった、今までの新温泉町の過去を振り返っても、現実が実証していると思っております。ぜひそういった視点で、町の将来に誤ることがないようにやっていきたいと思っております。長期的な展望、それから町の将来をどう生かすか、そういった視点で今後の対応も検討したいと思っております。

○議長（中井 勝君） 質問事項の整理をお願いします。

13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） 次に、温泉活用による町の活性化を目指して、平成31年4月におんせん天国室が新設されました。庁舎内にプロジェクトチームを立ち上げ、構想を練るとの考えでありましたが、現在までの構想と事業についてお尋ねをしたい。そういう中で、私はもう少し構想をしっかりと庁舎内で練る必要があるのではないかと。エコカーもいいわけですが、いつも走らずに置いたままのエコカーもあるわけで、やっぱりあれはよくないと思うわけです。私は特に、例えば湯区の配湯を、これについては加入金が80万円、それからゆめっこ認定こども園の床暖房も、これは以前に申し上げたんですけども、これもまだ実現してない。加入金が80万円ではとってもじゃないけど入ろうっていう意欲が湧かないわけです。こちら辺ももっともっと考えてみたら、半分にして2人入ってもらおうとかね。そういうほうがええのではないか、こう思うんです。それと湯地内の足湯の改善を求めました。屋根があっても背中にとぼとあれするよと、アオギリの湯、それからもう一つはジロンボ、タロンボの湯も、屋根が高過ぎて、雪が降ると雪が吹き込むと、そういったことを質問いたしました。これについてはどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 中井次郎議員、湯区の加入金は全く関係ありません。

それを踏まえて、西村町長、答弁をお願いします。

○町長（西村 銀三君） これまでから議員には、足湯の改善を指摘をしていただいております。現状ではまだそのままということで、改善がなされておられません。改めて、早急に改善方向を打ち出して、より利用しやすい足湯をつくっていききたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（中井 勝君） 13番、中井次郎君。

○議員（13番 中井 次郎君） もう一つの質問に移ります。厚労省はことし9月、突然に再編統合が必要な医療機関424機関のリストを発表いたしました。そのリストには、

浜坂病院は入っておらないわけではありますが、そのニュースを知った町民からは、安心の声とともに、このまま将来の病院が存続されるのか疑問だとの不安の声も出ています。但馬では以前、豊岡病院、八鹿病院を除いて、あとは全部20床、医師は2人と、そういう構想があったわけでありまして、住民の力でそれをはね飛ばしたというのが実態なんですけども、これらについての当局の見解をお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この1年以上前から、この浜坂病院のあり方検討委員会などを通して、経営内容も含めて、利用の推進といいますか、病院のあり方検討委員会の結論にもありますように、今後の浜坂病院の方向性を議論する中、なくてはならない病院として今後存続を基本にやっていく、そういうことを考えております。今回の424医療機関の中に浜坂病院が入っていなかったということは、これまで病院関係者、医師を中心に職員の皆さんのいろんな努力が実ったっていいですか、成果が認められた、そういう流れではないか、そんなふうに思っております。そういった意味でも、病院をきっちり維持、継続をして、存続を図っていきたいと思っております。

○議員（13番 中井 次郎君） 以上です。

○議長（中井 勝君） 以上をもちまして中井次郎君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

午後0時42分休憩

午後2時00分再開

○議長（中井 勝君） 休憩を閉じ、次に11番、中村茂君の質問を許可いたします。

11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 11番、中村でございます。今回、一般質問は3点について、町長と議論したいと思います。

まず1点目ですが、移住定住対策の現状と今後の方針であります。本町は、過疎、少子高齢化の町であります。この判断は人口減少によるものが多くありますが、その人口減少をもたらす現象は、多くにおいて縮小とか減退とか廃止とか、そういうことでよく表現されます。しかし、この地に住み続ける者たちは、これらを認識しながらもさまざまな抵抗を続けている、まさにこれが地域力でありまちづくりであると、そういうふうに私は思っております。人口減少のストップは至難な問題ですが、ストップはなかなかできるもんじゃありません。しかし、減少スピードを緩めることはいろんな施策の積み重ねの中で可能ではあるかなと、そういうふうに思っております。その具体的な方策、施策が、若者の定住と移住対策であるといえます。以前に2回の一般質問を行っておりますが、大きな進展がないように思っております。時間経過もありますし、改めて本町の移住定住対策をただしたいと思っております。

時を同じくしてと申しますが、本日の日本海新聞に地方創生総合戦略の２期総合戦略において、若者の移住定住促進の継続をうたい数値目標を定めている。けさですが、香美町の動きであります。町長これを御承知でしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） けさの日本海新聞で一応読んでおります。

○議長（中井 勝君） １１番、中村茂君。

○議員（１１番 中村 茂君） 読んだ感想をお聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 一歩、二歩進んでおるなという感じを受けました。

○議長（中井 勝君） １１番、中村茂君。

○議員（１１番 中村 茂君） 冒頭にやや失礼な質問したんですが、そもそも本町の移住定住施策の方向や具体的な展開は、何をもとに行っているか質問いたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町の移住定住施策について、平成２７年に策定した新温泉町地方創生総合戦略の施策の基本的方向の一つに、この移住定住の促進を掲げております。具体的施策である移住相談体制の充実、それから移住定住のための環境整備に取り組んでいます。平成２８年第２次新温泉町総合計画の重点戦略の施策の基本的方向の一つに掲げ、現在行っております。

○議長（中井 勝君） １１番、中村茂君。

○議員（１１番 中村 茂君） 地方創生戦略とあわせて、ほぼ同時期に町の総合計画が示されました。町の基本計画の中で、人口減少問題を重点戦略に掲げ、その戦略中の４で、まちでゆったり安心暮らし、この施策の基本的方向に移住定住の促進と１行あります。具体的な方向、方針を示した基本計画、施策の体系９８項目には上がっていない状態であります。その辺についての町長の見解はいかがなものでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先日も実は国会議員の先生からある冊子をいただきました。それには岩美町の実態が書かれておりました。それを見るにつけ、我が町のこの移住定住策の、何ていいますか、非常に低調な、十分な施策がなっていないな、こういう実感を感じております。そういった意味でもこの移住定住、本当に県下でもトップクラスの人口減少、そして過疎、そういった実態をやはりきっちり認識した上で、この移住定住策の充実を図る必要があると感じました。

○議長（中井 勝君） １１番、中村茂君。

○議員（１１番 中村 茂君） 行政っていうのは、やっぱりビジョンなり、ビジョンに対して計画ありで、それにどう実践するかという、そういう予算づけをしたりとか、そういう中で物事進むと思います。そういう分においては、一番の根本の今申し上げたところが、どうもとり方が違うのかなと。でも、自分なりに今示されました地方創生総合

戦略のことも含めてみると、1行での移住定住の促進って総合計画にはあるけど、どうもこの施策の体系98項目を、全て推進というか、事業をやっていったら、要は人口減少対策、移住定住なり、その含めたそれもつながると、そう思いました。ですから、1項目だけ、その98項目の、要は施策の全体が人口減少のそういう部分につながっていくんだと、そういうふうに僕は理解したとこであります。そういうところからいって、もう一つ不足してるのが、移住定住推進計画や推進方針、そういうものが明確化されているのかなということが思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、現状認識に対する危機意識というものが極めて薄かった、そういった中で今日のこの移住定住策が十分に達成なされていない。現実、非常に実績も上がっていないという、そういう現状があると認識をいたしております。そういった中で、やはり具体的にどうやるか、具体策をより計画性を持って詰めていく必要があると思っております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） もしかするとその具体策の一つが、この地方創生総合戦略なのかもわかりませんが、これは平成27年度から平成31年度の計画であります。次の更新というか、そのあたりはどうなんでしょう。まだ報告も受けてないし、議論もしてるというようなこともちょっとつかんでないんですけど。香美町がこうして示した部分がありますので、うちの状況を聞いておきます。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 香美町より少しおくられていると思っております。進捗状況は担当課長より報告をいたします。

○議長（中井 勝君） 岩垣企画課長。

○企画課長（岩垣 廣一君） 地方創生戦略についての進捗でございます。議員御指摘のように、今年度で5カ年が終了いたします。今の予定といたしましては、町の計画に合わせまして2カ年延長するという方針をしております。その作業は町の内部では行っておりますし、この議会にもちょっとその進捗内容につきまして、委員会報告をさせていただく予定にしております。ちなみに、香美町さんが今回5カ年の見直しを行ったということで新聞の記事になっております。但馬の中でどういう形にやっついこうか、あるいは県の中でどういう動きがあるかというのは、従来から担当者同士の中でお話を聞いております。県下で約52%が延期をして総合計画に合わせるという方向です。あとの48%が香美さんと一緒に、とりあえず5カ年で一旦見直すということでございます。町長は一歩進んでおられると申し上げましたけれども、やり方はどちらも今、現状一緒であると認識しております。以上でございます。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 別に滞ってるということではなくて、総合計画の、要は

満了というか、その期間に合わせていく、これも一つの方法だと思います。ぜひそういう部分については、もう少し早い段階で委員会に報告いただければという気がいたしました。

次に、本町の人口減少において、大きく人口増減の特徴というものをどのように町長、捉えておられますかということ。また、近年、出生数がどんどん減ってるという気がいたします。どのような状況であるかということ。また、総合計画で示した人口ビジョンという観点において、修正の必要はないのかなと、そういうことを聞きたいと思います。また、これら人口減少、特に出生数とか、そういう分において、具体的な減少対策があるかということも聞いてみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 出生数ですけど、一昨年が60人、昨年が50人、今年度、現状11月の30日現在で45名ということで、この11月が9名、平月は大体3名から4名出生があったんですけど、11月が急に9名ということで一遍にふえてまいりました。この調子でいくと今年度は60を超えそうな、そんな状況になっております。

一方で、全体のこの人口増減の状況であります。昭和25年2万9,788人から平成28年10月までに行われた動きを見ますと、昭和25年が先ほど言った2万9,788人から、平成27年度の10月、国勢調査は1万4,819人となっております。また、人口動態として最近の出生、死亡数を見ますと、出生数は減少傾向であります、死亡数が大体200人から250人ということで、かなり出生数を上回っているというのが実態であります。結果、人口減少の大きな要因となっております。また、転入転出を見ますと、ともに減少傾向となっておりますが、転入数を転出が上回る社会減の状況が続いております。近年は毎年100人から150人の社会減となっております。ここ2年の社会減の人数は100人を下回っているということで、少し社会減の状況も少なくなっているというのが実態であります。

今後の人口ビジョンの見直しにつきましては、現在の人口推移を、状況をよく見ながら、見直しを検討してまいりたい、そのように考えております。時期としては来年度、令和2年度国勢調査が開始されます。その状況を見ながらビジョン見直しについては検討を行いたいと考えております。

○議長（中井 勝君） いいですか。

11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） たくさん資料なりを示していただきました。ありがとうございます。

人口ビジョンについて触れたんですけど、人口ビジョンを定めたときに、短期の目標として平成32年の人口目標を示しておりました。1万3,600人です。そのときに特殊出生率は1.82という想定でありました。それがちょうど32年、来年ですから、それから見れば、現在の推計人口、1万3,500人です。ですから、推計人

口どおりにほぼ進んでいると、そういう気がします。ただ一方、特殊出生率1.82を目指したものが、今現在1.43という状態。ですから、余計人口ビジョンの見直しが必要かなと、そういうことを思ったところであります。ただ、特徴をもってしての推計の見直しなりが一番正解かと思いますので、先ほどの答弁で理解したいと思えます。

それから、この人口減少、出生数なりで、昨年12月に一般質問で結婚対策を意見させていただきました。町長は、町全体で少子化問題、結婚問題、婚活については意識を変え、社会福祉協議会と連携、また推進委員会の活動等推進を図っていきたく、そういう答弁でありました。その後の動きなりはありますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町内の方々が結婚するという場合、かなり抵抗があることも聞いております。鳥取市であるとか、幸い麒麟のまちの連携というものもできておりますので鳥取が近くなっておりますし、そういった方々との婚活事業を今後積極的に進めていきたい、そのように考えております。また、結婚相談員であるとか、そういった方々も高齢者の方々に一部お願いしてる面もあるんですけど、なかなか難しい状況もあるようであります。社会福祉協議会も含めて、今後協力を求めて、婚活事業の推進を図っていくことで、より人口がふえるような施策を打っていきたくと思っております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） そのことは前回の答弁で十分聞いております。方向、方針なりについてはそれでいいと思うんですが、実際、手をつけていただかんと、一向に解決しないという気がします。ちなみに昨年、未婚者の状況で申し上げました。30歳から44歳で見ると、未婚者、男性が447名、女性は204名、これがまた増加の傾向であるということ。先ほど広域圏での対応のことを言われました。やっぱりじかに汗をかいたり、直接の対策、人任せじゃなくて、そういうものが必要という気がしましたし、先進の町ではおせっかいさん集まれとか、そういう部分で仲人までいかにしても紹介し合える仕組みをつくってると。もう即、実施してほしいなと思えます。また、先ほど広域圏、麒麟のまちがあったんですが、一方では兵庫のこうのとりの関係の縁結びのそういう組織もある。その辺、どれぐらい登録されて、どういように動いてるか、そういう部分が聞けたらお願いしたいんですが。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 鳥取市における麒麟のまちの婚活事業の申し込みは、鳥取市と、それから岩美町を含めて、ちょっとうろ覚えですけど2,000人ぐらいあるということ聞いております。それ以外については把握をいたしておりません。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） その2,000人の中で、総数として本町は何人でしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

- 町長（西村 銀三君） ちょっと把握をいたしておりませんが、担当課長より答弁をさせます。
- 議長（中井 勝君） 岩垣企画課長。
- 企画課長（岩垣 廣一君） 麒麟のまちの婚活サポートセンターへの加入ということで、今お知らせをさせていただいております。ちょっと今、手元の実数がございませんけれども、去年からことしにかけてかなり人数は伸びているということは聞いておりますし、ことしの実績としてもう既に5組、イベントで成立したということも聞いております。そういった中で、どちらかという地元よりは若干離れたところのほうが参加しやすいということを聞いておりますので、正式に麒麟のまちに参加したのはことしの3月でございますけれども、これから数はもっとふえてくると考えているところでございます。
- 議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。
- 議員（11番 中村 茂君） 今のお話の5組というのは、本町の方が5組ということで捉えてるでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 岩垣企画課長。
- 企画課長（岩垣 廣一君） 本町の方がイベントでカップルになられた数ということでございます。以上です。
- 議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。
- 議員（11番 中村 茂君） 大変ありがたいという結果であります。ぜひ、西側もですが、東側のほうも、兵庫県下の動きですから、ぜひ両方とも機会として捉えていただきますように求めておきたいと思っております。
- 次に、平成27年度総合計画の策定時の高校生アンケートをちょっと思い出したいと思っております。その中で、Uターンしたいという高校生の思いが約4割あったと。その後、浜坂高校の進路希望なり、その状況から定住志向の変化はどのように捉えておられますか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 浜坂高校生の定住志向については、具体的なデータを持っておりませんが、その変化状況について把握はしていないわけでありまして。浜坂高校におきましては、進路ガイダンスにおいて、地元で活躍している方の話を聞く機会を設けること、そして大学3年生、それから短大1年生、浜高卒業生に対して地元企業の就職説明会を案内するなど、Uターンにつながる取り組みに力を入れているということを聞いております。そのような状況です。
- 議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。
- 議員（11番 中村 茂君） いろんな見方があっていろんな方法があっただけなんですけど、私は高校生の進路希望の状態から見たときに、地元就職者が平成27年が23人、28年が10人、29年が14人、30年が4人、31年が6人です。これを見ると、27年は就職者の71%が地元でした。それが29年では66%に落ちて、31

年では24人の就職者のうち6人しか地元に残ってないという、実際そういう進路の状況でありました。あっ、もしかしたら2クラスになったからかなという気がしました。学校に確認しとりましたら、2クラスの完了が、ちょっとこれ30年度末であったようであります。ですから、今言った数字は、3クラス体制での数字なんです。それが来年卒業する子は2クラスの中で出ますからね、どれだけ地元に残ってくれるのかなと、とっても気になるところであります。ですから、そういう部分でいえば、政策的にやっぱり求人依頼、もっともっと求人出してよということも、町の動きとしてしたらどうかということをおっしゃってあげておきたいと思っております。いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地元でやはり残っていただくということが一番すばらしいことだと思うんですけど、地元に残るメリット、やっぱり特典をつける必要があると考えます。現在、Uターンとかの方には一定の補助制度があるわけです。帰ってきたら幾ら幾ら出しますよという、その制度があるんですけど、実は高校を卒業して地元に残るという場合、全くそういう補助制度がありません。また、地元就職したら地元事業者に対する補助制度もない、そういう現状があります。Uターンした場合は一定の制度の中で、事業所にも補助金が出るような仕組みがあるんですけど、高校を出て出るとき、そんなときには全く何もないと、それから事業所にも補助金もないと。そういうことで、出さない努力、出したものを帰す努力よりは、出さない努力をする必要があると考えます。一旦出たら、なかなか向こうの出た先で人のつながりができたりし、なかなか帰れないという、そういう状況もあると思っております。まずは出さない努力、それにはやっぱり事業所の、高校卒業生を採用したら、地元の事業所にもこんなメリットが、補助金があるよ、それから本人にも地元に残ったら補助金があるよというふうなことをすることによって、出さない努力、これを本人、それから事業所、こういった地元に残っていただくということを制度としてつくっていききたいな、そんなふうにご検討しております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 先の質問で今のお言葉をいただきましたかったんですが、順番をもってして質問したいと思います。

人口減少対策において、移住定住の施策は大変重要だという気がいたします。昨年9月の質問を契機に、移住定住の担当窓口や事務分掌が町の制度として明確にできたと思っております。最新の市町では体系立った事業推進がなされておりますし、本町の移住定住施策の推進はどのようになされておられるのか。また、昨年からの変化を含めて答弁ください。

また、移住者の目標値及び実際の移住者と呼ばれる方の実績数値は何人になるのかなと、このほうもあわせてお願いします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、窓口であります。窓口は、商工観光課と移住定住担当の

地域おこし協力隊員が行っております。事務所をサンシーホールに置いて、相談の受け付けを行っております。そういうことで、商工観光課、これは兼務ではありますが職員が1名、そしてサンシーホールの地域おこし協力隊員が1名を配置をいたしております。

目標と実績です。まず、総合戦略の中で年3件を目標といたしております。実績は、平成27年度が4名、平成28年度も4名、平成29年度が9名、平成30年度が15名となっております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 今、総枠で聞いたんですが、具体的に聞いてみたいと思います。改めて窓口の一本化、窓口は確かに商工観光課、サンシーホールって言われました。窓口の一本化、つまりワンストップサービスという観点ですんで、窓口一本化であります。これについてはどうなんだろうかと。それから、専任はいない、兼務だということでありました。また町のホームページで、バナーで移住者のバナーがあるんですが、その辺のアクセスの状況はどうだろうと。それから、全国移住ナビに加入して、大きな範囲での情報提供してるようですが、その辺の実績なり示せるものがあるのかなということ。それから空き家バンクの状況はどうかということ。それから体験住宅の利用状況、民間の賃貸住宅の情報なんていうのは御案内できる、何というか、情報として持っているのかなということもあわせて聞いてみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 窓口であります、サンシーホールでもやっているということで、本町と2本立てということで一本化ができていないというのが現状であります、連携をとりながら進めておるといのが実態であります。それから、ホームページのアクセス数については担当課長がお答えをいたします。

○議長（中井 勝君） 岩垣企画課長。

○企画課長（岩垣 廣一君） ホームページのアクセスでございます。近年の状況でございますけれども、月当たりおおよそ9万4,000件ぐらいということで推移しております。そのうちの移住定住のアクセス数でございますけれども、月によってばらつきはございますけれども165件程度、平均して、でございますので、パーセントでいきますと0.2%程度ということになります。以上でございます。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先ほどの御質問の移住ナビの実績であります。9月4日から12月3日まで直近3カ月のページのアクセス状況であります。新温泉町は全国で188位となっております。それから空き家バンクの状況であります。空き家の所有者、それから空き家の利用希望者をマッチングさせる制度で、平成28年度から取り組んでおります。現在、ホームページで14件の物件を紹介いたしております。そのうち2件交渉中ということでありまして。利用者登録は42名の方を登録をいたしております。そのう

ち町外が24名、町内が18名。これまでに11件の成約があります。それから民間の紹介は、町のほうでは情報提供はいたしておりません。それぞれの業者で紹介をしているようであります。以上であります。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） なぜ民間住宅というふうに取り上げたんですが、要は相談で来たときに、案内するのに住まいという中で、やっぱり公営住宅は手元でわかりますけど、民間なりの空き部屋とかここにあるとか、それは基本的にはやっぱり持つておくべきかなど。直接交渉は別としても、そういうものを御案内するのも、この移住定住の窓口かなという気がしますので、あちこち聞いたんですけど、なかなかそういう情報は持つてない。ぜひ調べて、案内に生かしてほしいなとそんな気がします。実際に、先ほど実績を示していただきました。実績のとり方の部分ですが、この総合戦略の中で示してくれたやつで、相談窓口を通じた移住件数は、ここ4年間の中でゼロ件なんですよ。今もおっしゃったやつがどういう形で出てきたのかわかりませんが、実際に町が直接の施策の中で、直接生まれてきた移住ってというのはゼロ件。だから、こういう状態であるということ認識していただいて、やっぱり相談のあり方、窓口、そういう部分を再検討してほしいという気がいたします。

そういう中で、以前の一般質問で提案したんですが、実際に移住する方の転入転出時のアンケート、意向調査、これは強制的じゃなくて協力いただける方には、それをとりながら、うちは何が欠けてるのかなと、そんな部分を見つけてほしいということ以前に申し上げたんですが、いかがなものでしょうか。また、空き家っていうのは持ち主がおって税金がかかる分がたくさんあるんですが、空き家の持ち主に対して、例えば税金の納付書を発送するときに少し案内を入れる、そんなことは不可能なんじゃないかなと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） その辺の実態については、担当課長よりちょっと報告をいただきます。

○議長（中井 勝君） 水田商工観光課長。

○商工観光課長（水田 賢治君） アンケートにつきましては、9月の議会するときにも取り組みたいというふうに御答弁をさせていただきました。特に、但馬の中でも朝来市とか先進でやってるところもありまして、その効果が出ていると思っております。地域おこし相談員と協力をしながら、今どういうアンケートの中身にするかとか、それから窓口が特に転入転出の多い時期というのは、少し担当の負担にもふえますので、その実施をするタイミングとかをちょっと今はかっておるところでございます。以上です。

○議員（11番 中村 茂君） 納付書どうですか。

○議長（中井 勝君） もう一回、11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 空き家バンクで、登録件数が伸びてないということがあ

るようでして、一つ伸ばす意味で、空き家を持っておられる方、税金の納付書を発送するわけですから、特に町外の方が多いんですけど、そこに空き家バンク、こんな制度がありますよというような御案内を一つ入れるということは不可能なものでしょうかという質問です。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 対応はできると思います。ただ、これまでの取り組みの実態の中では、なかなか空き家を貸していただけるということに対して、同意といいますか、合意形成ができないという、仏壇があるとかいろいろな状況があるようでありまして、なかなか担当職員がそういう交渉をするんですけど、実態は空き家があっても難しいという、そういう状況があります。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 多分、多くの町を離れて時間のたった人っていうのは、あのふるさとの家どうしようかなとか、そんな思いを持っての方たくさんある。これからどんどんそういう人がふえるんじゃないかなって気が。だから逆に、向こうからバンクのことを教えてくださいっていうような問い合わせがあるような、誘導としてこういう御案内を入れとく。たくさん書いたものはいけませんよ、もう簡単に。相談をお受けしますよぐらいでしてほしいなど、そういうことを申し上げておきたいと思います。いずれにしてもアンケートも前向きに対応していただけるようですので、様子を見たいと思います。

次に、移住ということについて申し上げたいと思いますが、現在の移住については、暮らし方の選択としての地方ということが浸透してるようでありました。30代、40代の地方移住が大変活発になっているという現実。また、現在の移住層は子育て世代とも言われております。本町のターゲットはどこにあるのかということと、今までの実績の中で、効果的な事業っていうのは何かあったのかどうかということを確認したいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、住みたい田舎ベストランキングでは、新温泉町はなかなか上位にランクされてないという、そういう現状がある中で、なかなかまずホームページなどでもヒットをしていただけないという、そういう現状があります。そういった中で、非常に施策の、何ていいますか、優遇策、補助制度が少ないとかいろんなこともあって、なかなか、まず選んでいただけない、そういう大前提の中で、我が町の移住定住策が図られていると思っております。実績につきましては、担当より御報告をいたします。

○議長（中井 勝君） 水田商工観光課長。

○商工観光課長（水田 賢治君） 移住のターゲットとしましては、基本的には若い世代というものに来ていただくのが一番いいのかなと思っておりますが、この田舎暮らしの調

査とかで見ますと、当町におきましては、やはり自然、それからシニア世代が住みやすい環境だということで、高い評価を得ているようであります。特に、自然といいましても、今、日本全国同じような視点があるわけですが、当町につきましては温泉がございます。温泉というのは、やはり移住相談のことで大阪とかに出向いていっても、やはり関心を示していただけたところでもありますので、そういうところの興味のある方に特にターゲットを絞って向かいたいと思っております。また、政策として効果があったものにつきましては、やはり定住促進の助成事業、こちらがあると思っております。以上です。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 今の答弁の中で、住みたいまちランキングのことがあったんですが、宝島社の「住みたい田舎」ベストランキングであります。2019年の総合ランキングで、鳥取県鳥取市が大きな町の部分、10万人以上の町ですが、連続1位を獲得してることがあります。小さい町では6位に養父市、10位に朝来市、本町は何位だったのかなということ。逆に本町に何位ですって通知があったときに、それだけなのか、もっとコメント何かついてんのか。その辺があれば教えてください。教えてもらうにあわせて、この鳥取市の施策の部分で、住まいのこととか仕事のこと、子育て、結婚、趣味、健康、交通等85項目の優遇策をもってして御案内してると。豊後高田市は104個だったんですけど。とにかくそうして、生活の中の切れ目なく御案内ができて。そういう施策をちゃんと打ってる。こんなことが鳥取市を見た中では感じるようなところがあるんですが、そういう町とのうちの比較を、担当部署はしてるのかな。鳥取市、最高点でなくても、例えば養父、岩美、朝来でもいいけど、そういう比較する中で、うちはこうせんとあかん、だからこういう施策をつくるよ、そんなことを仕事として向かってるかどうかということを確認しときたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 確かに議員がおっしゃるとおり、他の町との比較検討、非常に重要だと思っておりますし、最も気になる部分であります。選んでいただける町になるということがやはり移住定住の大きな鍵になると思っております。先ほど宝島社の「住みたい田舎」ベストランキングということでありました。これについては、この総合ランキング、新温泉町の分としてランキングはされていないというのが実態であります。一方で、宝島社の近畿エリアランキングの中で調べた場合、総合で7位、それから自然の恵みの部門で8位、それからシニア世代が住みたい田舎では8位にランキングされておりました。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 確かに近畿地方の中ではそういうランキングだったと思います。ただ、全国的な中でいえばランク外という形。そんな位置づけしかないということがあります。近畿地方でいえば、隣のほうの香美町や朝来とか養父市なんかはもっ

ともしっかりと上ですから、そういうことをいけばまだまだ努力の余地があると、そういうふうに思います。

ここにそれぞれの町の移住定住の案内の冊子を持ってきました。どこを見ても、内容を見てもよくできてる。これをちゃんと見たら、あ、住んでみたいなど、そんな冊子と思うんです、私は。養父、朝来、これはWONDER KAMIという、香美町です。あといわみ暮らしとか、鳥取市もあります、豊岡市もありますし。こういうふうなことを、これをつくらあと思ったたらちゃんと施策を打って、それを載せていかんといけませんからね。まずは今、何が求められてるのかということをやっぱり明確にしながら、じゃこの施策をって。人まねもいいけど、ちょっとうちはカラーが違うでっていうことを含めてつくるべきという気がしますね。そしてこういうものがつくられてくると。もうとってもショッキングなことなんですけど、キャンペーンなんかに行きますよね、移住の相談会とか。組織的に全国大都市圏でやったりとかありますよね。そういうところの実績ってというのは何かありますか、どれだけ相談件数受けて、どんな対応ができたとか、そんなもんってあれば紹介してほしいんですけど。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先日、地域おこし協力隊員のこの移住定住の方とお話する機会がありました。東京などに行っていたり、関西圏も行っていただいております。その相談会、関東では全く成果はない。近畿でも、相談者は来るけど非常に、何ていいますか、成果は極めてない。そういうことを聞いております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） そういう状況というのが、私も聞きました。それとショックだったのが、何をもちうちを売ったらいいんでしょうかねと。要は、よそはこういうような刀や武具を持って、さあ、どうだいていって言えるじゃないですか。でも、うちはずも丸腰なんですよと。持っていくのは観光パンフレットぐらいで勝負しとんです、ほかと。これとね、観光パンフレット、勝負ですわ。こんなもん、悪いけど全然話にならんです。だけえね、僕はもう行きたくないですわ。そんな仕事をさせとるんですよ、本当に。いや、本当にやる気なくて、もう帰ろうかなっていう、僕だって気になります。だから本当に、底辺の一番末端の状態をちゃんと町長、見てくださいよ。町長、するするで言っても、できない仕組みが今、現存しとるじゃないですか。仕組みとか、その辺はいい返答はいただけますけど、じゃあ実際はどうなんだい。もう自己点検なりチェックをしてほしいですね、求めておきたいと思います。

そういう部分で、時間が気になりますね。移住定住の推進というのは、本町で生活するための環境整備、すなわちまちづくりになると思います。現在進行の4つのプロジェクト、情報、包括、温泉、土地、これに移住定住を加えるべきじゃないかなと。一つの例として、農業委員会が出てきました。なぜでしょう。土地つき住宅、空き家バンク、こんなことで、要は土地を始末しようと思ったら農業委員会の手続が要る、そんな事例

もあるんですよ。ですから、一つのプロジェクトでいいプランをつくるようなことをぜひ提案したいんですが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 移住定住、これまで手薄だったと思っております。それは、兼務でやっておったりいろんな、専任がいなかった。そういうこれまでのあり方が、やはり移住定住の非常に手薄い状況になってると反省をいたしております。プロジェクトチームをとということではありますが、現在、5つ、4つって言われたんですけど、議員。5つプロジェクトチームを立ち上げて推進を図っておりますので、6つ目として移住定住チーム、これについては人材確保も含めて、今の中でやれるかどうか、そういったものを改めて検討させていただきたいと思えます。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） それがある程度まとまったら、一つの大きな、これがうちの町の推進だというふうに示してほしいですし、ぜひPRの中でAI、まだこれは余り町では取り組んでないですね。僕の知ってる会社は移住定住エリアというような商品をつくって、これは単なる移住定住の御案内ではなくて、観光の御案内、外国語に対応したような御案内ができる、そんな商品もあるようでありますし、ぜひAIなり、そういう観点から、より一層の推進を求めておきたいと思えます。

次に、観光の拠点整備は官民一体で推進というテーマのもとで質問いたします。おんせん天国の推進事業は、住民や関係する組織団体と一体となって推進すべしと、そういうふうにずっと意見しておるところであります。きのう同僚議員のおんせん天国の目標値で、観光客50%アップは30年度起点で令和4年度で達成と、そういうふうに僕は理解しておりました。これはたしか僕が町長から引き出したもんだと思ったんですが、それがきのうの答弁の中で、令和6年目標というようなことを言われました。これどういうことなんでしょうかね。僕は真剣に聞いたつもりなんだけど、ほんなころころころ変えてもらうもんじゃないと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いいかげんに申したわけではないんですけど、そのときの思いの中で、一刻も早い150万人を達成したい、そういう思いの中で述べさせていただきました。令和元年度、それから切りのいい令和、それから国道、高規格道路が6年後に完成する、そういった思いもありまして、それと並行するような形で変更させていただいた、そういう状況でありますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 変えるのはいいんですけど、今おっしゃったようなことをちゃんと説明して、もう2年延長するよ、目標達成のために、いろんな諸条件変わってきたしというふうに説明してほしいですね。いや、ちょっときのう言ったこととは違うんでって、そういう簡単なものじゃない気がしますし、そういう簡単に進めてほしくな

い。だから1年で10万人っておっしゃいました。じゃあ10万人をどうしてするの。おんせん天国おんせん天国って言ってたら10万人ふえるってということないと思いますね。そういう部分では、おっしゃることに対するバックをちゃんと持ちながらやってください。そのほうがよくわかるし、みんなもようわかると思います。天国の推進がだめって言ってないですよ。そういう進め方してほしいってことです。

それで、本題に戻りますけど、湯村はやっぱり本町の観光の拠点という気持ちを持っております。そういう中で、観光経済新聞社、「にっぽんの温泉100選」において、湯村温泉の評価が下がっているという感じがいたします。町長は、もしごらんになったとすればどう感じられますかということと、こんな状況の中で、官民と対策をもってして向かってほしいということやら、官民含めて共通理解されて物事が進んでるのかなと、そういう部分を聞きたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町並み、それから人口減少、観光客の推移、宿泊客の動きを見ますと、非常に新温泉町の魅力たくさんあるんですけど、生かし切れていない、そういったものが原因で宿泊の減少なり町並み整備が少しずつ、何ていいますか、後退している、こんな感じを持っております。この活性化の鍵は、やはり温泉だということを思っております。先ほど移住定住の話もあったんですけど、大きな鍵になるのは、やはり温泉配湯、温泉地区、それから浜坂地区に移住定住した場合、5年間温泉使用料、基本料金無料、こういったところが大きい鍵に、キーポイントになると考えております。そういった町の特徴を、やっぱり施策の中でしっかりと打ち出して行って魅力を高めていく、それが結果的には観光客の増にもつながり、そして人口増にもつながっていくと考えておりますので、より現在、町の中心であるこの温泉を軸にしたまちづくり、そしてすばらしい地元の産品、こういったものを絡めた中で、より魅力ある、来ていただけるまちづくり、こういったものを目指していきたいと思っております。ランキングが下がっているということについては、いろんな、湯村を見ても浜坂駅前を見ても、商店数の減少などで目で見てわかるという状況もありますので、そういったところを重点的に町並み整備、力を入れてやっていきたい、そんなふうを考えております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 観光経済新聞社の情報はとられましたか。この「にっぽんの温泉100選」は、旅行会社なりそういうプロの目から見た温泉地のランキングでありまして、雰囲気やら見どころ、体験やら、泉質やら、郷土の食文化なり、そういう部分の中で決まっております。上位には草津、別府、下呂、指宿、道後、有馬、全国の有名温泉地が軒を並べておるんですが、湯村は現在、2018年度で84位であります。2年前は64位でありました。湯村の最高値は1991年、平成2年の29位が最高であります。近場では皆生が67位、78位が67位に上がってます。三朝は37位が40に下がってます。城崎は大体毎回10位前後で推移しております。1位は草津が13

年連続で1位です。こういう中で、湯村にちょっと特化して申し上げておるんですけど、やっぱり観光の中心地が衰退すれば、ほかも同じように下がっていくと、そんなことが言えると思いますし、そういう点からちょっと湯村に特化してるわけですが、このような状況を観光団体なりと意見交換するような機会はあるのかということやら、新しくできた組織、観光団体を盛り上げる絆コンファレンス、こういう方々と話し合いはされているのかどうかということを知りたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） できるだけそういった温泉地の方々と話し合いをしたいというふうなことで、この先々月ですか、東京でありました全国名湯100選、こういった環境省主催の講演会にも行ってきました。僕も5分間しゃべれということで、しゃべらせていただいて、草津の担当課長も横に座っておったんですけど、いろんな会話の場を持たせていただいたと思っております。また九州の温泉地で有名な市長さんともお話をさせていただいて、いろんな機会をつくって、今後、新温泉町のPR、温泉のよさを訴えていきたい、結果的に新温泉町に来ていただきたいということで、熊本の市長さんともお話しさせていただきました。一度、新温泉町に行きたいなということで、名刺交換もさせていただいておりますし、いろんな人脈づくりをすることによって、より町の魅力を高めていきたい、そんなふうに思っております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） そういう努力は評価しますし、いいと思うんですが、実際にこの町の観光にかかわっている人たち、団体、そういう方たちの意見交換なり、そういう機会を聞いておるんです。おいでいただいて、外から、何だい、この程度かいじゃ困りますから。サービスを含めて、そういう観光地としての観光地づくりっていうのは、地元の方々にお願いせんなんもんがあります。そういう方々との話し合いとか、そういうことはされてますかという質問ですが。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今のところは七釜の旅館組合とか、そういった地元がメインで、近隣のそういう組織とはほとんど話し合いの場はつくっておりません。今後やっていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 近隣というよりは我が町の、七釜もいいですけど、湯村もありますし、浜坂お宿組合もありますし、そういう方々とやっぱり定期的なというか、やっぱり話し合いをして、よりよい観光地づくりについて意見交換しながら進めてほしいですね、町長の得意な分だと思っております。

これは既に情報として入ってるかもわかりませんが、湯村の旅館が冬季の誘客対策として、免許返納者とか、積雪があって道路運転したくないというか、そういうお客さんに対して、全但バス料金の一部を負担する割引利用を進めております。1月から実施す

るようですけど、これについては承知されておりますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ちょっと承知をいたしておりませんので、担当課長より答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 水田商工観光課長。

○商工観光課長（水田 賢治君） 私どももちょっとまだ承知をしておりません。

○議長（中井 勝君） 岩垣企画課長。

○企画課長（岩垣 廣一君） 交通対策の会議の中で、いろんな路線の話があるんですけども、バス会社からそういったお話は聞かせていただいております。ただ、その補助の内容とか、細かいところまでは聞いておりませんが、今、交通対策とあわせて鳥取路線、あるいは観光への配慮というのもあわせて協議をさせていただいておりますので、その中の一つとしてそういったお話がバス会社からもあるというところでございます。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 大変残念なことですね。観光の担当部署は知らない、町長はもちろん知らないということで。でも本当に意思疎通というか、非常に悪い気がしますね。商工観光係長は多分知ってるゆう気がするんですが。ハウレンソウじゃないけど、もう少しその辺の情報がうまく入るようにならないんですか。だから要は、日常から問題に対する取り組み方がちょっとずれとると違うかなと。実際、現場の様子を聞いたりとか、どんなこと考えとなるかなとか。そんなその話ができる、これ簡単なことですよ。相手は補助団体であったり、本当に関係する団体じゃないですか。もう少し仕事の仕方を考えてほしいですね。特に温泉地域、湯村地域は、本庁が観光課の主で進めてくれとりますので、支所はこの春から手離しましたから。余計、だから離れてる部署に対してアプローチしてほしいんですよ。どうですか。そんなことをしながらやっぱり観光伸ばしましょうよ。非常に残念でしょうがない。

まあ、行くところ、旅館なり、またバス会社で進めてるようであります。これが一つ町が絡めば、三方一両損じゃないけど、みんなが協力し合ってお客さんのバス代がちょっと安くなる。そんなことができたなら最高だと思いますし、ぜひ、今から言ってできるかどうかわかりませんが、そういう気持ちで官と民と一緒にやってやるという、そういう観光地づくりをしてほしいなと、そういうふうに思います。

そういうことで、あ、うそだ、失礼しました。ことしは地域力創造アドバイザー事業を導入されておまして、事業推進をされております。僕は外から見とる中では、よくワークショップをやったりとか、そんなことをされておまして、とっても楽しみにしてらるんですが、その辺の進捗なりを教えてくださいなと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 総務省が推奨するアドバイザーに来ていただいております。現在、講演を2回、それから会合、地区住民、それから観光関係者、民宿の方々など、関

係者に4回ほど集まっていたいただいて会議を行っております。テーマごとにワークショップを開いて、アイデアを出していただいておりますという現状であります。例えば外観整備、それから河川活用、それから道の駅のあり方、それから空き家活用、それからその他推進のソフト事業、こういった点について皆さんから御意見をいただいておりますというのが現状であります。結果として湯村温泉街の町並み整備のあり方などに反映をさせていきたい、そのように推進を図っている途中であります。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 何回かワークショップもされて、僕はいい評価しております。要は、そこから出てきたものが本当に生かせるかどうかということ。だから、その辺についてはどういうふうに考えてるかということをお願いいたしますし、景観から見てのまちづくりっていう部分で言えば、湯村温泉の誘導案内板整備事業なり、湯村歌長線改良事業、この分がたしか事業、ことし継続事業でやっとなと思うんですが、これの動きもあわせて教えてほしいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いろんな御意見を生かすために、今後そういった意見の生かせる部分から具体的に推進を図っていききたい、そういう思いで取り組んでいききたいと思います。

それから、看板などの設置の件であります。本年度3件を予定しております。一つが朝野家旅館横の町道や八幡神社線の階段部分の改良、それから2つ目に、公営駐車場や観光施設への誘導案内板の設置、それから3つ目が、歌長湯村線の道路の舗装工事、この3つを予定いたしております。まずは、町道八幡神社線、この階段部分の改修については、昨年度からの繰り越し分と、それから今年度施工分あわせ11月に入札を行いました。不調に終わっております。再度見直しを行い、工事を年度内に発注、完成を予定いたしております。また、誘導案内板設置については、地元の見意見交換の中、デザインなどを修正し、道路の舗装工事も含め地元との調整会議を行い、これも早期に完成をさせたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） ある分では、今進めてる地域力創造アドバイザー事業なりとの関連が多くあるという気がするんですが、その辺はいかがでしょう。年度内完成って、もう12月ですよ。これ雪が降るし、冬にお客さん多い中で、工事がたがたして、あんまりええ環境じゃない、してほしいのはしてほしいからしてもらったらええんだけど、その辺のちょっと工事段取りのことも聞いてみたいと思います。先ほどのアドバイザー会議でのワークショップなり、あの辺とのかかわり方っていうのどうかなということもあわせて教えてください。それからもう1点、申しわけないです。アドバイザー会議の事業の成果として、今できること、少し先にできること、大分先に、いろんな条件があるから。そんな形でちゃんと報告ができるんでしょうか。その辺も明確にして

ください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） このアドバイザーの件であります。現在、先々週、まだ4回目が終わったところで、現在取りまとめをいたしております。御報告を近々にしたいというぐあいに思っております。それから今後の予定については、担当課長より説明をさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 山本建設課長。

○建設課長（山本 輝之君） 議員御指摘の湯村温泉誘導案内看板などの工事につきましては、湯村温泉街なみ環境整備事業で行っているところでございます。湯村の中で道路舗装や側溝、階段の傷みが激しいということから、修繕の工事が必要ということがございました。その中で、せっかく工事するのであればということで、歴史と伝統のある情緒のあるこの湯村温泉の町並みを大事にしながら、来訪者が町歩きを楽しめるような環境整備をしていきたいということで、平成30年度から始めまして、調査等を行って、ハード事業を中心に行ってきたところでございますが、このたび吉田先生と地元のほうでやっております町並みを検討する会ということで、検討のほうが進んでおりますので、できるだけその検討内容が反映できればという思いで、この事業を、ハード事業でございまして、年度の後半に持ってくるということでおくらせてもらってるところでございました。ただし階段につきましては、昨年から予算を組んでおりましたので、入札をしましたが、昨年も不調に終わりました、本年度も11月に階段全部ですけれども、全ての修繕を一本にして工事を出させていただきましたが不落ということでございました。そのため、内容をもう一度検討いたしまして、早期に発注して年度内の完成ということで進めていきたいと思っておりますし、その看板等につきましても、この12月に調整会議を地元と開きますので、それを最終決定として工事を発注したいと思っております。年度内完成に努めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 段取りよくやってください。

観光の部分を上申しとるんですが、観光は見る、食べる、遊ぶが基本要素であります。景観の視点からのまちづくりはありがたいことでもありますし、しかし食べる場所ということも重要であります。湯村に帰るたびに静かになっておると、という町の出身者がおまして、あんたら何とかせんかいなって僕も叱られたところであります。特に中心部で食事場所がない、中心部3軒は以前はレストランなどを営業されておりました。その設備は使用可能な状態にあると思っておりますし、ぜひ空き店舗、空きレストランをチャレンジショップというような制度で応援ができないのかなど。家賃補助、宣伝だとかそういう経費を補助したると、そんなことができないかなということを提案していきたいと思っております。また、ほかの制度でも創業支援とか、そういう部分の幅を広げていただくとか、そういう部分からしてこの応援できる仕組みをつくってほしいなという気

がいたします。それに至るまでは誘致、中町のあたりにある中華料理屋とかすし屋さんとか、ああいうほうにお客さんが、ありますよというような御案内なりも積極的にしてほしいなど。湯村に行ったら食べることもなかったわや、これは本当にダメージなんですよ。ぜひその辺の取り組みをお願いしたいと思います。

それともう一つ、この中心部の店舗ですけど、大体閉店が午後6時ごろなんですよね。だから午後6時以降は全くお店があいてない。赤字までしてって言うことは言いたくないんですけど、例えばせめて中心部の3軒、町長とかかわりのあるお店もあるんですけど、交代で週末あけるとか、何らかの策をやってほしいです。行政がするんじゃないから民間にしてもらおうやつですからね、ちょっと難しい分もあるかもわかりませんが、それでもやっぱりお願いしてほしいなど。ぜひそれを進めていただきたいと思います。今までの部分でいかがでしょうか、答弁を下さい。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） チャレンジショップなり、1カ月とか3カ月とか1年とか、試験的に食堂、レストランを、カフェをオープンさせる。そういった制度、各町でやるということをよく聞いております。具体的にはそういう空き店舗をお借りして、そして新しく事業を起こしたい方々に提供するという制度でありますけど、具体的に言葉ばかり、頭の中で考えておっても、なかなか推進が図れないということもあります。行動に移すようにやっていきたいと思います。

それから、湯村温泉の、本当に6時ごろで閉まった後真っ暗で、本当に歩くのも寂しいという現状もありますので、そういった点、いろんな面で地域の方々の協力もいただく必要があると思いますし、これまで旅館の中で全てを消費していたというふうないろんなこともあると思います。そういった旅館の方々との連携、協力、こういったもんもやる中で、町に活気を取り戻すように頑張りたいと思います。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 期待します。

それから、この秋に、10月ですか、健康と温泉フォーラムによって名湯百選に選定されました、湯村温泉ですが。10月24、25日でしたかね。フォーラムの三友会長の講演会もあったところであります。同会の終わりにリフレッシュパークゆむらを厚生労働省の健康増進施設の認定について、合田理事長に若干時間を持っていただいてお話をさせていただきました。合田理事長いわく、今がチャンスですよと、ぜひ申請されるべきだと、そんなアドバイスを受けたところであります。必要要件を整理して、ぜひ申請してほしい。この制度に乗りますと、医療費として見られる部分もありますし、入院なんかも温泉を使いながらのそういう健康増進、これも対象になるようでもありますし、ぜひそういう認定を受けた施設にしていくように申請をお願いしたいと思います。後で答弁下さい。

それから、近年、サイクリングが人気のアウトドアスポーツになっております。背景

には自転車活用推進法がありますが、この法律御存じでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、健康増進施設に認定をということであります。現在、リフレッシュパークの温泉入浴指導員が1名、資格を取りました。こういった資格があるということが認定の条件になっておりますので、そういったところを、これ以外にも認定条件があるようであります。そういったところをクリアする中で、認定条件を整えて、そういう健康増進施設に認定していただけるように図っていきたいと考えております。

それから、サイクルツーリズムにつきましては、兵庫県で交流人口をふやす目的ということで、サイクルツーリズムを推進することになったようであります。10月18日、但馬地域のモデルルート推進協議会を発足いたしております。但馬内のモデルルートは現在2つでありまして、今までからサイクリングの大会が開催されていたルートを設定いたしております。1つはコウノトリチャレンジライドルート、主に豊岡を中心としたコース、もう一つが銀の馬車道・鉾石のルートで、養父市、朝来市を中心としたルート、この2つであります。また新温泉町におきましては、このコウノトリチャレンジライドルートと鳥取県をつなぐルートとして、今後広域連携ルートになる予定となっております。以上であります。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。残り時間が少なくなってます。

○議員（11番 中村 茂君） 自転車活用推進法に基づいて、今、県では計画がなされておまして、その一つがこのやつだと思います。私はこれを見たときに、うちだけ置いていかれてるなと気がしました。南但あたりで西向きも香美町あたり、香美町もぎりぎりまで。うちだけ何で置いておかれるのかなと。これに対して、10月18日の会議で何か申されましたか。どっちかっていうと、何だ、建設部署の会議みたいな感じがしたんだけど、何か発言されましたか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新温泉町でもこれに取り組む必要があるということで、このルートを拡大をされることになっておまして、我が新温泉町もこのモデルルートに設定される可能性ということで聞いております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 二の次っていう感じがしますね。そういう部分で、12月3日の神戸新聞では、自転車ツーリズム北播磨の拠点、サイクルステーションの整備、このような動きもある。もう一つ、鳥取県が整備を進めるサイクリングルート、鳥取横断道、鳥取岡山接続で岩美町の兵庫県境からJR境港駅150キロ、これは中国知事会が推奨する日本海沿岸広域ルート。最終的には下関までつなぐというような、こんな構想があるようであります。ぜひ、私どもはこちらとの橋渡しができるような逆提案を兵庫県に対してしてほしいなど。それでもって広域連携ルートと言えるんじゃないかと。ぜひその辺の取り組みをやってほしいという気がいたします。

それからもう1点、来年は合併15周年になります。そういう部分で、合併5周年は何もできなかったという記憶があります。合併10年は夢ホールで式典やったり、小・中学生の作文コンクールの発表とか、民俗芸能の発表会がありました。記念事業というものは、やっぱり歴史を刻むものでありますし、そういう部分では、今から準備して予算をつけて、やっぱりみんなが喜ぶような事業をぜひ検討してほしい。ああ、15年たったな、よかったな、そんなことが響くような事業を求めていると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状では15周年の記念式典の予定はしておりませんが、15周年記念イベント、冠をつけるイベントなど、そういった機運を高めていきたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 11番、中村茂君。

○議員（11番 中村 茂君） 時間が1分になりました。

最後、総じて申し上げたいと思うんですが、ぜひ、観光の部分ですが、町一丸で新温泉町版のDMOを組織して、町のランドデザインやら、総合的な誘客推進なり、そういうものを図ってほしい。とにかく一丸でチーム新温泉の中で、いろんな力を合わせながら、この町をもっともっと元気な町にしてほしい、それを申し上げて一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県庁から一番遠い町、新温泉町であります。一方で、そのメリットもたくさんあります。人脈もあります。それから町の宝、温泉を軸に、本当に海、山、温泉、こんなすばらしい町はないと思っております。この資源を生かして、もっともっと魅力ある、町外からどんどん人が来ていただける、そんな町になるよう頑張ります。

○議長（中井 勝君） これをもって中村茂君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

午後3時19分休憩

午後3時35分再開

○議長（中井 勝君） 休憩を閉じ、再開します。

次に、5番、浜田直子君の質問を許可します。

5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 5番、浜田直子です。議長より許可をいただきましたので、質問させていただきます。

町民の温泉利用促進についてお伺いいたします。おんせん天国としていろいろな取り

組みが行われています。積極的に広報もされていて、好評のように感じます。特に、全国でも珍しいおうちで温泉は、まさしくおんせん天国そのものです。できれば給湯範囲を広げていただけるとありがたいです。そのように希望いたします。ですが、すぐの実行は難しいと思います。温泉給湯のない地域の家庭では、地元の温泉に行く機会は、家庭によりまちまちになりますが、近いからとしょっちゅう行かれる方もおられると思います。また反対に、地元の温泉施設に行ったことのない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。温泉配湯のない地域の方にも、町内それぞれの温泉のよさを身近に感じていただくことが、おんせん天国の住民として、まず一番大切なことではないのでしょうか。住民の方たちが温泉のよさを実感してこそ町外の方たちへもPRできるのではないのでしょうか。町民の皆様のお口コミこそが一番信用でき、効果のある宣伝、PRになるのではないかと思います。そのためには、まずもって温泉配湯のない地域の方も十分に新温泉町のそれぞれの温泉に入ってよさを知っていただく。知っておられる方は温泉を続けることのよさを体験していただけるように、気軽に町民が利用しやすくなるよう優遇される対策を求めます。あわせて、サウナのない施設に設置希望の声もあります。温泉施設の入場券は、できれば1週間、1カ月、半年間、1年間などの町内の温泉施設共通パスポート、家族連れの利用しやすい家族券、親戚が集まったときの親戚まとめてお得券のようなものがあれば、利用頻度もふえ、温泉のよさを理解していただけるとと思いますが、どのようにお考えですか、お伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新温泉町は温泉に恵まれた町であります。町の持っている最大のこの財産、この温泉を住民生活、それから観光、それから健康、いろんなエネルギーの利用に使える、すばらしい財産だと思っております。今、御質問があったように、この町の温泉のすばらしさ、まず町民に享受をしていただく、それが一番大事ではないかと考えております。そういった意味で、今、3カ所、主に浜坂エリア、それから七釜エリア、湯村エリアで入浴できるわけでありまして、これを少しでも多くの地域に温泉の恵みを享受していただけるような、そういう政策をやっていきたいと考えております。先ほど御提案のあった温泉入浴券、共通入浴券でありますけど、現在、町内6つの温泉施設で共通温泉入浴券をつくって利用させていただいております。特にイベントなどで利用をいたしております。また、共通チケットについても、現在、来年度になるかもわかりませんが、おんせん天国室で共通チケットをつくったらどうかということで検討をいたしております。例えば当地、新温泉町に勤務をしていらっしゃる方、それから先日も宇野雪村賞で受賞で町外から来られた方、そういうつながりのある人たちにこういう共通チケットを持っていただいて、よりファンになっていただく、そういうつながりを持っていくということで、こういう共通チケットのあり方についても検討していきたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 共通チケットということですが、具体的にどのようなものでしょうか。また、それはなぜ知らない方が多いというか、私も知らないですし、PRはどのようにされていますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、6つの温泉施設で使っている共通入浴券、これはイベントなどで利用させていただいておるということで、これをもっともっと範囲を広げて、例えば土木事務所であるとか、美方警察などで町外から勤務されている方、こういった方にも町民と同じ料金で温泉施設を利用していただける、そういうチケットっていいですか、カードを持っていただく。そういうことによって知人、それから家族、こういった方々がどんどんどんどん新温泉町を訪れていただく、そういうきっかけづくりにもなる、そういう思いで5年後、150万人を目標にしておりますし、そういった意味でも、将来の、未来のお客さん、観光客、そういったものをつくる、そういった一環で推進を図っていききたいな、そんなふうに考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのチケットもすばらしいと思いますが、今現在住んでおられて、給湯設備のない一般住民の方が利用できるという券ではないわけなんですね。そういったような券のことをお尋ねしてるんですけど。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、リフレッシュで年間会員券などをつくって御利用をいただいております。毎日行けば1回当たり30円ぐらいで入れるという制度も現在あるわけでありまして、そういった制度をほかの施設でもできないか検討をしていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのようにしていただくことで、町民の皆さんが、町外の方へ直接PRしていただける気持ちがふえると思います。なるべく早く、そうやって年間パスポートがどこでも使えるように、前向きに検討していただくよう期待します。

また、はるばる町外からお越しいただいた方たちに対しましても、できればいろんな温泉施設をめぐるみたいと思われる方も多くいらっしゃるようです。そう思われる方々がおんせん天国を広く理解していただくために、先ほども同じようなことを言いましたが、温泉めぐりの、これは城崎温泉のような1日パスポートを発行されてはどうでしょうか。そうすることにより、いつもと違う温泉にも行っていただくきっかけになると思います。そして、それぞれの温泉のよさ、違いを体験していただくことにより、新温泉町の温泉を気に入って何度もお越しいただけるように、町外の方にも1カ月、半年間、年間の町内温泉施設共通パスポートも考えていただきたいですが、お考えをお聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） かつて湯村温泉でも7つの湯をめぐるということで、旅館、それから薬師湯、リフレッシュなどを中心に展開した時期が数年前にあったんですけど、一般客が一般の営業されている旅館を利用することに対して、ちょっと利用方法に食い違いがあったりして、現在していないということもあります。そういった民間の方々の施設は無理だと思うんですけど、現在ある公営のできる範囲内の温泉めぐりは可能だと思いますので、検討してみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 何ぼ温泉が好きでも、5カ所も6カ所も入るっていうのはちょっと大変だと思いますので、二、三カ所でも十分ありがたいと思います。そのように前向きに着手していただければありがたいです。

湯村温泉の荒湯は広く楽しいので、時間を過ごすのには本当にいい場所だと思います。そういったような場所が浜坂地域に、温泉に関して広くて楽しく時間を過ごせることが、そういうようなスペースがないように感じています。できればそういった、広くてゆっくりできる場所があればという声を聞きますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ゆっくりできるといえばユートピアが比較的、2階にも休憩所もありますし、奥にも休憩所があります、1階の奥にも。そういうことで、ないというわけではないわけですけど、湯村温泉に比べればそういった、駅前に足湯はあるわけですけど、なかなかゆったりと入って、それから会話をするという状況にはないと思っております。駅前の再開発のこともありますし、今後、街路整備の中で検討をしてみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ユートピアとか、そういったような屋内のはどこでも自由というか、ゆっくりしていただけたらと思うんですけど、私が言いましたのは、やはり荒湯のように外でテーマ的というか、ちょっと観光地的、浜坂地域の温泉街を感じさせる情緒というか、そのような時間がゆったり過ごせる場所がないと、ちょっと温泉街、イメージできる場所が余らないというか、小さな泉源とかは確かにかわいいですけど、やはり集まってゆっくりできる場所があればと思うので、そのようなところを期待してるんですけど、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まちづくりの長期展望の中で、浜坂地区が温泉街らしくということでもありますけど、研究して、課題として勉強していきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように期待します。温泉街と、浜坂地区の場合は古い町並み、これをセットというか、これが新しい感覚では、ちょっと浜坂地域では意味がないというか、やはり古い温泉情緒、また温泉と、湯村とは違った浜坂なりの古い町

並みを生かして、その上、おんせん天国である新温泉町の中の浜坂の味というか、古さを生かした独特のものを考えていただかないと、新しいものをつくってしまえばいいのではなく、浜坂本来の情緒を残したままの、そのような施設を考えていただきたいのですけど、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜坂地区の歴史や文化、そういったものとの整合性が温泉とどうかみ合わせていくか、非常に難しいといたしますか、おもしろいテーマだと思います。僕も吉岡温泉とかあっちこっち行って温泉街見てくるんですけど、そういったところも参考にしながら、研究をしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように期待いたします。また、海水浴に来られた方が、キャンプとか来られたときに、気軽に利用できる琴引浜の露天風呂のような小さなお風呂を、入浴目的っていうのではなく、気軽に遊び感覚のお風呂を、小さくていいんですけど、浜辺の近くか松林の近くあたりでつくっていただいたら、またおもしろいんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先日ジオパーク館の10周年の記念の講演会がありました。その際、パネラーの方々の意見の中で、ジオパークの中に展望、2階に風呂をつくれとかカフェをつくれとか、そういう御意見もあります。そういう意味で、現在、浜の近くには松の湯があるわけですけど、そういった地域に合った温泉、現在、松の湯とユートピアだけなんですけど、そういったところとのつながりも考えた上で、また検討、あくまでもちょっと検討ということしか言えないんですけど、考えてみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように期待いたします。以前、同僚がジオパーク館でということもありましたので、それも考えていただけるのもありがたいですが、先ほども出ていました、具体的には私は、松の湯の近くの松林のほうで、そこでしたら近くて、松林の中で温泉が引けるんじゃないかなと、そこにちょっと温泉があったら、子供たちも海に入ったり温泉入ったりして楽しく遊べるかなとか、観光協会のやはり事務局の近くのほうがちょっと目が届くのかなとか、そういったようなものがあれば、温泉地らしい浜辺ということで、浜がちょっとお客さんが減ってるとお聞きしましたので、そういったようなものも考えていただければありがたいと思いますので、期待しておりますけど、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） おんせん天国らしいまちづくり、どこに行ってもそこいらじゅう温泉があるということはすばらしいことだと思っております。財源が必要になってくると思いますし、まちづくりの全体像の中でそういった、今、議員の御提案についても

検討させていただきます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 貴重な温泉を大切にしまちづくりをしていただけるとありがたいと感じます。多くの方々の町民の意見を取り入れた企画をされるべきと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 駅前再開発も含めて、駅の足湯の利用、もっと足湯をふやせとか、風呂をつくってほしい、駅の前に風呂を設置してほしい、そういう意見も駅前の商店街の皆さんからも聞いておりますので、住民の方々の意見を基本に、この温泉のあり方、考えてまいります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように期待いたします。

次に、新温泉町の魅力周知と増加を期待し、男性、女性も活躍できる町となるような対策についてお尋ねいたします。私は、多くの方々が実感されていると思いますが、新温泉町は大変恵まれたいい町と思っています。おんせん天国のとおり、豊かな自然、海、山、温泉、そしておいしくて豊富な食べ物、北前船、麒麟獅子初め、多くの伝統文化に育まれた人柄、そして6年後につながる高規格道路により、鳥取、豊岡とも、以前に比べとても近く便利になり、これからもますます改善され、豊岡、鳥取のほぼ中間地という好条件で、どちらからも観光に来られる方がふえる可能性、あるいはベッドタウンになる可能性のある町と感じています。また、ぜひそうなるようにも努力し、対策をとっていただきたいです。とてもよい町になるのではないのでしょうか。

先ほどもありましたが、そのような恵まれた中であっても、今は御存じのとおり、残念ながら人口減少、少子化、高齢化が進んでいる現状です。当町のこれからの戦略次第ではないのでしょうか。今、その原因はさまざまあると思いますが、人口減少をとめるには、若者が当町の魅力を知り、理解し、当町に住みたくなるようにふるさと愛を育むことも大切ではないのでしょうか。そのためには、地域の中でさまざまな方たちとの触れ合い、体験、交流などから、文化、伝統を通じた教育から生まれる地元のきずなもあります。また、新温泉町の魅力を内外に向けしっかりアピールし、都市部からも知られる町になることも必要と感じています。ほかにも多くの魅力のある町と思いますが、この新温泉町の魅力を伝え広める対策は、どのようにされていますか、お尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新温泉町の特性を生かしたまちづくり、それが魅力とつながっていくと考えております。現在ある温泉を軸にした町、それから、やはり何よりも地元に残っていただける魅力ある町にする必要がある。それには雇用の場であるとか、基本的には働く場をいかに提言できるか、そこにかかってくると思います。町に魅力はあっても、現状ではやはり8割方、高校生、町外に出ているという、そういった現状もあり

ます。一旦はまた出て帰ってきたいという方もかなりいるわけですけど、実態はなかなか働く場所がないために帰ってこれない、そういう町の厳しい実態があると思います。豊岡市などでも、女性が残っていただく、女性が帰っていただく、こういう女性に力を入れた、そういう雇用の場、活躍の場を力を入れているということを聞いております。そういったところを参考にしながら、当町としても若い方々が残れる町に力を入れていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 豊岡市のとおりというか、豊岡市のことはまた私も後ほど言わせていただこうと思ってましたので、その件は本当にありがたいです。それですけど、まず新温泉町の、先ほどお尋ねした魅力を内外に向けてしっかりアピール、PR、都市部からも知られる町になることも必要なので、そのことに対する対策の強化というか、これは多くの方が今までも言っとられると思うんですけど、具体的な対策はどのようにされるべきとお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状では、ホームページ、フェイスブックなどがメインになってると思っております。隣の町の香美町は、神戸市に事務所を置いて、担当職員を2名置いて、PR活動、そういったものを、町の広報、PR、そういったものをされております。そういった意味で、新聞社であるとか、いろんな広報する機会が多いということも聞いておりますし、それによってテレビや新聞に出る、そういうことも多いと。現在、カニといえば神戸、県庁に行けば香住というのが先に出ます。なかなか浜坂が、非常にカニでは実力はあるんですけど、PRが少ないために香美町にとられているという、そういった現状もあります。今後はそういった事務所を神戸に置くとか、そういったこともPRの一つにつながっていくと思います。やっぱり口コミ、それから人と人が接することによって情報発信がより重みを増してくると思ってしております。ただホームページで流しているだけでは、なかなか町のいいところも伝わっていかない面が多いと考えております。それから、ふるさと納税をやり始めたということで、ことしも11月末現在、2,000以上のアクセスといいますか、申し込みがありました。そういった意味で、これまでと違ってかなり新温泉町のPRにつながってるというぐあいに思っております。そういったことで、よりふるさと納税の提案、商品を出していただける方、事業者の方々にも出していただければ、さらに新温泉町のPRができると考えております。そういった意味で、このふるさと納税は町のPRに大きく寄与できているとも考えております。そういった方向でやってみたいと考えます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 神戸に事務所っていうのはすごく大胆というか、ありがたいといえばありがたいんですけど、大胆で、いいアイデアだと思うんですけど、もっと地道に、新温泉町の子たちが都会に出たときに、どこから来たのって言われてもわか

ってもらえる、新温泉町ってここですよって地図を持ってきて説明しなくてもわかってもらえるような、そういったような具体的な対策っていうのは、何かないでしょうか。ホームページとフェイスブックっていうことに力を入れてPRされているっていうことなんですけど、フェイスブックは楽しいとか、見させていたただいてますけど、楽しいですけど、ホームページっていうのはそんなに何年も前から変わってない現状ではないのかなと思うのですが、そういったようなところでの工夫のところを教えていただくと、またそれにあわせて見させていたただきたいと思うんですけど、ホームページの見やすさとか、そういったようなところへの思いについてお伺いいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ホームページの更新については、後で担当課長が回答させていただきます。実は、子供たちが町外に出たりしたときに、ここの町の存在っていいですか、町名も含めて、どうPRするか、知ってもらおうかということでもあります。最近、東京に私も出張でかなり行くんですけど、基本的にタクシーの運転手さんに新温泉町を知ってますか、但馬牛知ってますか、神戸ビーフ知ってますか、浜坂知ってますかとか、湯村温泉、夢千代さん知ってますかとか、そういうのをタクシーの運転手さんに聞くようにしとります。新温泉町っていったらほとんどゼロです。一方で、夢千代、それから但馬牛、これはかなり、但馬牛っていいですか、トランプさんが食べたりしたこともあって、但馬牛、神戸ビーフはほとんど運転手さん、知っている方が多いかったです。ただ、新温泉は誰も知らんと、どこにあるかも知らん、そういう現状がありました。そういう中で、やはりPRをどうするかということは、新温泉の大きな課題だなということ、やはりPRする人、ホームページだけではだめだなということをおもっています。そういった意味で、町長みずからがやはりPRすることが必要だということ、できるだけ外に出たら新温泉を知ってもらおうような、そういう働きかけをしてきておるつもりであります。

問題は、子供たちがどう新温泉町を他町の方々に知っていただくかということですが、非常に難しいといえますか、もっともっとテレビに出たり、それから有名な方が新温泉町にはいらっシャいます。そういった方々をやっぱりつながりを持って、新温泉町出身だよと言っていたらいいような、そういう場が必要かと思っております。かつて旧温泉町時代に、実は僕、高校野球ついていったとき言われたんですけど、温泉高校って何か芸者さんでも養成する科があるんですかとか、そういうことを何人にも聞かれたことがありました。

○議長（中井 勝君） 町長、答弁長いですね。簡潔に答弁をお願いします。

○町長（西村 銀三君） 実はそういうことで、名前と地域が合致するような、そういう地域にしていくことが非常に重要なことだと思っております。以上です。

○議長（中井 勝君） ホームページ。

岩垣企画課長。

○企画課長（岩垣 廣一君） ホームページについてでございます。ホームページについては、見やすさをできるだけよくするということ、日々努めているというふうな考えてるところでございますけれども、近隣の市町等を見ましても、かなりホームページの画面自体を新しく変えているところもございます。ただ、かなり高額な金額をかけて皆さんがやっておられる実態がございます。ホームページの更新も、来年に計画はまだしておりませんが、近々に当然する必要があると思っております。ただ、周りと同じような形のものでは、やはり特徴が出せないのかなと思っておりますので、そういう特徴を出せるような形のホームページのあり方というのを考えていきたいと考えているところでございます。

もう1点、知名度が低いということでございますけれども、また委員会資料でこのたび出させていただき予定にしております。内容につきましては、またそちらでお話をさせていただきますけれども、新温泉町親善大使というのを設置して、知名度の向上というのに取り組みたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 日本には当然市町はたくさんありますので、その中で目立っているのは大変なことだと思います。そのように前向きに取り組んでいただけているということをお聞きして大変心強く思います。ホームページも見やすく検討していただけているということで期待しています。

それとまた、9月の定例会でも質問させていただきました子育てハンドブックの件なんですが、現在はこども教育課が担当されています。そのときに他市町の見させて、集めさせていただきました。そういった中で、健康福祉課のようなところで担当しているところもありました。内容を見ますと、妊娠前からの内容等が多くなっています。ですので、できればその市のように、健康福祉課が担当されるべきとも思います。あるいは、健康福祉課とこども教育課が協力し合って作成されるほうが、お母さんも一段とわかりやすくなるのではないかと思います。いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 実は、この新温泉「暮らしの便利帳」、これを見るとかなりポイントをきっちりと押さえて、わかりやすくなっております。今の子育てハンドブックもいいんですけど、ぜひこれを見ればわかると思いますので、これを参考にさせていただきたいと思います。そういうことで、これをメインに見ていただいたほうがいいのではないかと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 一家に1冊。そのようないいものがあるとは存じなくて、申しわけなかったです。またあれですし、でも子育てハンドブックもやはり継続していいようにするというお答えをいただいていたと思うんですけど、次の更新のときにはいいものをするというふうに思うんですけど、どうでしたでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これもちょっと議長に叱られるかわからんですけど、今考えておるのは、更新に当たって、実はスマホの時代になってきましたんで、若いお母さんは特にスマホで情報を得ると。それで、スマホの場合は情報更新がもう即、スピーディーにできます。一旦書くと、1年とか情報伝達が古くなって遅くなる場合があります。ですから、できたら今後は紙媒体でなしに、そういうスマホを使った情報伝達をやりたいと、町の情報全体がそうなんですけど、そういう方向に取り組んでいきたいということをやりたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それは子育てのだけではなくて、いろんな情報をそういう方向にシフトしていくとか、変えていくんですか。子供以外のことも。何歳ぐらいまでの方を対象に、情報をそのようなスマホで検討されていますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 何ていいますか、ICTの時代でありますし、スマホが普及率が1億何千万か普及しております。ほぼ普及率がもう100%近くになっているというふうな、高齢者、70歳以上の方でも、かなりの所有率に上がっておりますので、そういう情報提供の仕方が今後変わってくると思っております。子育てハンドブックについても、できるだけスマホで検索できるような、そういうことを一番にといいますか、早くやっていきたいと思えます。

○議長（中井 勝君） 浜田議員、通告に沿って質疑をお願いします。

5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 高校を卒業し、多くは都市部で学びます。そして、帰ってくる男性、女性もいますが、その率の低さが今の人口減少の原因の一つでもあります。特に若い女性の帰省率、回復率が低いのが現状のようです。実際、当町の20代の女性は10代よりも少なくなっています。そうした中、男性、女性にとっても働く場所をふやすことも重要ですが、同時に、人手不足も言われています。男性も女性も誰もが能力を発揮できる町であると思われないと、子供たちに選ばれない、帰ってこない。先ほどもありましたけど、豊岡市とは但馬ということで連携をとっていくべきと考えますので、豊岡市のことを少し述べさせていただきます。

豊岡市のワークイノベーション戦略を行うワークイノベーション推進室は、男女共同参画を踏まえ、全国でも大変注目されています。SDGs等も含まれています。豊岡市は、基本構想として小さな世界都市を目指しています。城崎国際アートセンターは、世界から人気の高い演劇の施設としてほぼ毎日活用され、市内全ての子供たちに本物の芸術と触れる機会をつくられています。2021年4月開学予定の兵庫県立国際観光芸術専門職大学も着工されました。さらに2020年3月、江原河畔劇場がオープンし、劇団「青年団」が東京から引っ越してきて、5年後にはアジアナンバーワン、さらに世界

で知られる演劇祭を目指し、2020年9月に第1回豊岡演劇祭がスタートします。豊岡市で私たちの目指す方向の一つが、12月2日に行われたジェンダーギャップ解消に向けた戦略の方向性を示す提言報告会がありました。その挨拶の中で中貝市長は、小さな世界都市になるためには、ジェンダー平等に向けたまちづくりが必要。女性のためだけの市政ではない。男性にとってもよいことである。人口減少の加速、女性の減少は、町の消滅につながる。都市部より帰ってきたいと思う女性はいるか。女性を登用しないのは半分の可能性を捨てている。公正さの欠如になるとも語っておられました。高校卒業後、都市部に出ていった、この豊岡に帰ってくる回復率は男性の約半分くらいしか女性は帰ってこないというデータから、女性も活躍できる町を目指されたそうです。このように、豊岡の人の流れは増加が見込まれます。そこで、ここは三、四十分ほどの地理を生かし、一緒に人の流れを生かしていくお考えはありますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 豊岡市長のおっしゃるとおりだと思います。考えはあるんですけど、実行するにはいろんな町の基本的なベースが必要だと思います。それには事前のそういう計画性は必要だと思いますし、今後、やはり女性がこの町に残っていただける、結果的には子供たちがふえる、そういった方向性、町が活気ある町になる、そういうことで今後、豊岡市を参考にしながら取り組んでいきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように期待しています。

このように豊岡市は、幅広く取り組んでおられます。当然、お母さんが働きやすい子育て環境の整備もされていて、豊岡市のこども園、保育園では、0歳児でも見てもらえるこども園も整備されています。また、11月15日に日高で行われた講演会で平田オリザ氏は、働く場所さえあれば人は集まるとするのは間違いであったと早く気づくべきであるということをおっしゃられました。平田オリザ氏は、自身が9月の下旬に関東のほうより、豊岡市日高に家を建てて、家族で引っ越してこられています。その体験を踏まえて、家族が動く、人が動くのは、現在は女性、奥様の意思がとても重要であったと言っておられます。女性が動くとき男性も動く。そして、その女性が動くときのポイントは何かというと、まず子育て環境である。そして教育環境、文化、医療などを今と比べ、それより同等かよくないと動こうとしない、行きたがらない。なので、私は豊岡市に来ました。コウノトリのおかげで子宝にも恵まれましたと、そのようなニュアンスのことをにこにこされながら語り、講演会を締めくくっておられました。そのような観点からも、誰もが能力を發揮できるまちづくりを進めることが大切と思われませんが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そのとおりだと思っております。そういった理想の町になるには、やっぱりそういったところを一つ一つ押さえて、何ていいますか、充実を図ってい

く必要があると思います。ただ、我が町のメリット、豊岡と鳥取に挟まれているわけですが、そういった挟まれているということのメリットを上手にこの町の魅力を発揮することで生かしていける、そういうポジションにあると思っておりますので、そういう立地のよさ、海も山もあるというすばらしい財産がありますので、そういったものを生かしながら、一つ一つ充実を図っていきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように思い、進んでいただけるよう期待いたします。また、鳥取と豊岡が近くなりますので、逆に、新温泉町が子供たちも浜坂道路の記念式典のときに言っていたように、通り過ぎる場所になるのではないかなというようなちょっと不安なことも言っていましたので、そのようにならないように、この町が有効に、この距離感を生かした町として十分に生かされるように期待いたします。

先ほども町長も申しておられましたが、この町は本当に暮らしやすく、そして当町の子育て環境は恵まれています。保育料、医療費、中学校まで無料ですし、給食費等も検討していただいています。新しい園舎ができることにより、この町のイメージアップにつながります。そのイメージアップにより、明石市、岡山県の奈義町ほかのように、ほかのように、子育て支援が充実しているイメージがあらわれれば、住民もふえていくと思います。お母さん、保護者、家族、地域の方々の早くという切実な思いを感じていただきたいです。子供は無限の可能性が 있습니다。地域の宝です。ですが、子供たちは熱や病気、けがなど、いつもはらはらなことが多いです。急な熱でも近くに子育て環境があれば、おじいちゃん、おばあちゃんが迎えに行ってくださいと、お母さんは仕事を急に抜けなくてもいいので助かります。何度も休めない方もいらっっしゃいます。また時給により働いておられる方なら、その分収入も減ってしまいます。きのう、きょうと熱心に議論してくださっていることもわかりますが、国は小さな保育園等の設置も支援している時代です。お金でしょうか。町の将来を考えると、立ちどまって考えていただきたいです。男性も女性も、働く場所と子育て環境の整備と充実なくして、地元で暮らしにくい暮らしになると思います。知り合いの方も子供さんが20代で、都市部に出ています。その方が、子育て環境がよくなると子供に帰ってこいと言えないと言っていました。ぜひ早く言っていただきたいです。検討委員会の答申を尊重し、町民からの要望書も議長宛てに出されている今、早期の整備に向けてのお考えをお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 女性の方々が生活しやすい環境、それから働きやすい環境、それから活躍しやすい環境、それから子育てをしやすい環境、医療が受けやすい環境、いろんな環境があると思います。全てが町で賄うことは、対応することは不可能な面もあるんですけど、鳥取と豊岡の間に挟まれた、そういったメリットを十分に生かしながら、女性が、子供たちがこの町で元気で生活できる、そういう環境づくりに力を入れます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 前向きな答弁、感謝いたします。そのように期待いたします。

以上で質問を終わらせていただきます。

○議長（中井 勝君） これをもって浜田直子君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） お諮りいたします。本日の会議はこの辺で延会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中井 勝君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

次は、12月6日金曜日午前9時から会議を開きますので、議会議事堂にお集まりください。長時間お疲れさまでした。

午後4時24分延会
